文部科学省委託事業

令和 7 年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

（専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証）

電気通信工事業界のための
高等学校及び専門学校連携による
人材育成モデル構築事業

成果報告書

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、株式会社東京リーガルマインドが実施した令和 7 年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

令和８年　３月

株式会社　東京リーガルマインド

内容

第１章　事業の概要 1

第１節　事業の趣旨・目的等について 1

第１項　事業の趣旨・目的 1

第２項　学習ターゲット、目指すべき人材像 1

第2章　事業の実施 2

第１節　実施体制 2

第1項　構成機関 2

第２項　事業の実施体制 3

第３項　各機関の役割・協力事項について 4

第2節　令和７年度の実施内容 6

第1項　実施内容の全体像 6

第２項　事業推進体制の整備 8

第３項　意識調査アンケートの実施 9

第４項　教育コンテンツの開発と実証講座の実施 25

第５項　業界紹介イベントの開催 34

第3節　事業実施に伴うアウトプット（成果物） 42

第１項　年度別（令和 3～8 年度）アウトプット一覧 42

第２項　令和７年度アウトプット＜教材開発/実証講座＞ 43

第３項　事業実施によって達成する成果及び測定指標 44

第3章　最終年度までの具体的な取組 46

第１節　計画の全体像 46

第2節　本事業終了後の成果の活用方針・手法 49

第 1 章 事業の概要

第 1 節　事業の趣旨・目的等について

第 1 項　事業の趣旨・目的

2021 年、政府は、「新しい資本主義」の実現に向けて、その重要な柱として、地方でのデジタルの実装を進め活力ある地域づくりを目指す「デジタル田園都市国家構想」を掲げた。この構想実現のために、総務省は「デジタル田園都市国家インフラ整備計画」を作り、そのなかで 5G も不可欠なデジタル基盤の一つに挙げられている。
5G ネットワーク整備に向けても、電気通信工事人材の育成は急務である。

以上のような背景から、情報系専門学校と工業高校の連携により、それぞれの新卒人材を電気通信工事業界に輩出すべく業界企業とのコンソーシアムを編成することで産業界のニーズに見合った人材育成カリキュラムの開発、民間資格の創出、新卒採用及び関連教育のプラットフォームの構築など、高等学校入学から、専門学校進学、就職後のキャリアパスまでを明確にし、入職後の離職問題に対するフォローアップまでも含めた人材育成モデル事業を実施する。

第 2 項　学習ターゲット、目指すべき人材像

〇高校及び専門学校で共有する目標・人材像・ビジョン
業界のニーズに見合った高・専一貫の教育プログラムを開発し、業界に対する就労モチベーションを高めるとともに、専門学校進学後の学びとの整合性の取れた教育を連携し、に産業界における電気通信工事人材の育成に寄与する教育のアウトカムを目指す。

〇高校卒業段階までに目指す人材像・ビジョン
高校卒業段階までに、業界への興味や理解を促進し、社会に出る前に IT を含めた基礎教育とエントリーレベルの専門教育によって入職者の増加と職業定着を目指す。また、専門学校に進学した場合の情報系科目との有効な接続を可能にする「情報」の知識・スキル習得を目標とする。

〇専門学校卒業段階までに目指す人材像・ビジョン
専門学校卒業段階までに、ドキュメンテーション能力、プロジェクトマネジメント能力の基本と実務に有効な資格（工事担任者、陸上特殊無線技士）取得を想定した、電気通信工事業界における高度人材（作業責任者候補）をイメージした人材像を目標とする。特に工業高校卒業者は IT パスポート取得レベルの幅広い IT に関する基礎知識、CCNA 取得レベルの通信ネットワーク人材を目標とする。

第2章 事業の実施

第１節 実施体制

本事業では、令和７年度については、以下のような構成機関により実施委員会、調査部会、開発・実証部会を構成し、事業を推進した。

第1項 構成機関

（1）高等学校

	名称	役割等	都道府県名
1	埼玉県立川口工業高等学校	調査・開発協力・評価	埼玉県
2	埼玉県立三郷工業技術高等学校	調査・開発協力・評価	埼玉県
3	埼玉県立大宮工業高等学校	調査・開発協力・評価	埼玉県
4	学校法人山口松陰学園 みなとみらい学習センター	調査・開発協力・評価	山口県・神奈川県
5	ヒューマンキャンパス高等学校 秋葉原学習センター/大宮学習センター	調査・開発協力・評価	東京都・埼玉県

（2）行政機関

	名称	役割等	都道府県名
1	埼玉県教育局 県立学校部 高校教育指導課	開発協力・評価	埼玉県

（3）専門学校

	名称	役割等	都道府県名
1	学校法人中央情報学園 中央情報専門学校	調査・開発協力・評価	埼玉県
3	学校法人麻生塾 麻生専門学校グループ 麻生情報ビジネス専門学校	調査・開発協力・評価	福岡県

（4）企業

	名称	役割等	都道府県名
1	株式会社 ミライト・ワン	調査・開発協力・評価	東京都
2	常盤電業株式会社	調査・開発協力・評価	埼玉県
3	株式会社ミライト・モバイル・イースト	調査・開発協力・評価	東京都
4	東電通ネットワーク株式会社	調査・開発協力・評価	東京都
5	株式会社ミライト・ワン・ネクスト	調査・開発協力・評価	埼玉県

6	株式会社町田電話工業	調査・開発協力・評価	東京都
7	株式会社井上通信	調査・開発協力・評価	東京都
8	株式会社大電テクニカ	調査・開発協力・評価	千葉県

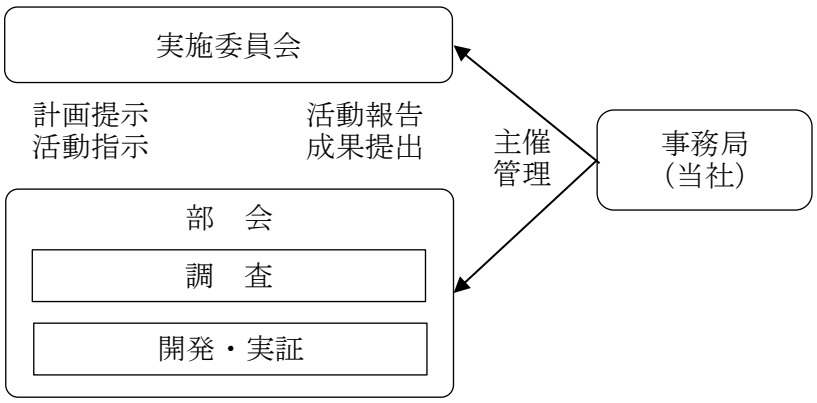
(5)コーディネーター

	名称	役割等	都道府県名
1	株式会社東京リーガルマインド	事業統括	東京都

第 2 項　事業の実施体制

本事業では、実施体制として「実施委員会」「調査部会」「開発・実証部会」の3 組織を設置した。各組織の概要は以下の通りである。

なお、株式会社東京リーガルマインドは各組織の会議主催者として座長を務めるとともに、事務連絡・経費管理・請負業者手配等の各種事務作業を担当した。



○ 実施委員会

構成員: 教育機関、行政機関、業界企業、学識者

役割:　事業計画・事業活動方針の策定、部会への作業指示、
活動内容の承認・評価、活動成果の評価

○ 調査部会

構成員: 業界企業・団体、教育機関

役割:　調査企画、調査対象検討、調査票作成、集計結果分析、調査報告書作成

○ 開発・実証部会

構成員: 高等学校、専門学校、業界企業、行政機関

役割:　カリキュラム設計、教材設計、開発教材評価・修正、開発報告書作成、
実証講座企画・設計、実施結果分析、実証講座実施報告書作成
高・専一貫のプログラムは、下記の高等学校と専門学校が中心となり
開発する。

●プログラム開発校

高等学校	専門学校
埼玉県立川口工業高等学校 埼玉県立三郷工業技術高等学校 埼玉県立大宮工業高等学校	学校法人中央情報学園 中央情報専門学校
学校法人山口松陰学園	学校法人麻生塾　麻生専門学校グループ 麻生情報ビジネス専門学校
学校法人佐藤学園ヒューマンキャンパス高等学校	

第 3 項　各機関の役割・協力事項について

〇高等学校
埼玉県立川口工業高等学校
埼玉県立三郷工業技術高等学校
埼玉県立大宮工業高等学校
学校法人山口松陰学園松陰高等学校
学校法人佐藤学園ヒューマンキャンパス高等学校
・産業界のニーズを反映したエントリーレベルカリキュラム開発
・専門学校との教育コンテンツ連携（開発助言）
・実証講座モデル校
・新卒作業員人材の育成・輩出

〇行政機関
埼玉県教育局 県立学校部 高校教育指導課
・他の県立高校に対する業界及び事業の PR
・人材プラットフォームへの参画促進
・地域事業としての高校−専門学校連携に対する意見、提案、監督

〇専門学校
学校法人中央情報学園　中央情報専門学校
学校法人麻生塾　麻生情報ビジネス専門学校
・産業界ニーズを反映した上位カリキュラム開発
・高校との教育コンテンツ連携
・新卒職長（責任者）レベル人材の育成・輩出
・事業モデルの全国水平展開を見据えた福岡モデルの展開、実践
〇企業
株式会社東京リーガルマインド＜事業コーディネーター＞
・高校→専門学校→電気通信工事業界の一気通貫型の人材プラットフォームを

構築・運営

・職業教育、人材マッチングイベント企画実施

・在学中及び入職後のキャリアコンサルタントの派遣

・事業モデル全国水平展開のコーディネート

株式会社ミライト・ワン　他 7 社

・必要とされる人材像、教育、及びキャリアパスの再定義

・本プログラムからの新卒人材採用

・業界の及び職業の若者に対する PR（職業体験など）

・業界紹介イベントにおけるセンター施設利用体験プログラムの提供

第2節 令和 7 年度の実施内容

第1項 実施内容の全体像

●実施事項

A. 「コミュニケーションと情報デザイン講座」の開発と実証講座 （詳細後述）

R7 取組： 「情報科目における入門プログラム（コミュニケーション＆デザイン編）」講座のテキスト教材を制作し、通信制高校において実証講座を実施する。

R7 成果： AI 講座、実践 ChatGPT 講座を 50 分×4コマ実施。
今の情報社会にマッチした ChatGPT の内容で、生徒、教諭共に体験高評価を頂く講義となった。多くの学生が既に使用しているが、正しい情報の導き方を学ぶ事で、より興味を持ち使用する事が出来る。来年度は、より明るい面、暗い面が案内し、情報のコミュニケーションを高めていきたい。

B.「通信エンジニアリング入門レベルチェックリスト」作成と実施

R7 取組： 専門学校2年生を対象とした「通信エンジニアリング入門レベルチェックテスト」問題を作成する。

R7 成果： 「通信エンジニアリング入門レベルチェックテスト」作成。DVD にて格納し中央情報専門学校へ送付し、実施する。学生のレベルを確認し、自身でも自分のレベルを認識し、問題点について取組む事に役立った。

C.「キャリア教育科目（IT 分野）」の制作と実証

R7 取組： キャリア教育科目における職業体験部分の授業として教材を制作し、実証講座を実施する。また、専門学校の紹介も行い通建業界へ連携を取って紹介していく。教材として、参加企業に業界の仕事内容等の紹介 VTR を作成してもらう。[参加企業] 常盤電業株式会社、株式会社ヒューマンパワー、
中央情報専門学校

R7 成果： ヒューマンキャンパス大宮学習センターにて実施。ヒューマンキャンパスの全国をネットでつなぎ、視聴を行った。
リアルタイムで 13 校～14 校 40 名～50 目名が視聴した。

D.「ネットワーク構築・運用講座Ⅲ」（詳細後述）

R7 取組： CCNA/CCENT 講座の改修をもとに三郷工業技術高校、川口工業高校、大宮工業高校で体験授業を50分×6コマ実施する。併せて「ネットワーク通信」に対する学習意欲を高めることを目的として、ネットワークセキュリティタイムトライアルを実施する。

R7 成果： 三郷工業技術高校 15 名、川口工業高校 63 名、大宮工業高校 21 名
50分×3 コマ×2 日開催された。
ネットワークについて学べる機会は少ない中でとても有意義な実習との感想があった。タイムトライアルで力を発揮する生徒も見られた。

E. IT パスポート＜基礎編＞　e ラーニング教材の作成と実証

R7 取組：　マネジメント/ストラテジ系」についてかみ砕いた内容の教材を作成し、e ラーニング化して三郷工業技術高校、川口工業高校、大宮工業高校 2 年次を対象に各学校で実証する。

R7 成果：　教師が授業をするための教材と生徒用を作成し DVD にして各学校へ送付。
生徒が IT の基礎概念を理解し、自習意欲や資格取得への挑戦意欲を喚起できるように働き掛けが出来た。来年の事業終了後でも、各学校で授業として運用できるようにした。

F. インターシップイベント制作・運営　（詳細後述）

R7 取組：　12 月 16 日ミライト・ワン市川研修センターにて電気通信工事業界の仕事体験と実態調査を目的としたインターシップイベントを開催。
参加企業による業界・お仕事紹介、研修センター施設の各種設備を利用した電気通信のお仕事体験を実施。協力企業による事故のない安全な実施のため誘導体制も強化。

R7 成果：　高校生 121 名、専門学校生 10 名が参加。
電気通信工事業界の仕事を具体的に知る事が出来、実際に生徒自身が楽しんで通建の仕事を体験する事によって興味を持ち、今後の進路選択について期待できる結果となった。

G. 全国展開におけるインターンシップイベントの制作と運営　（詳細後述）

R7 取組：　12 月 16 日松陰高等学校ヒューマンキャンパス大宮学習センターにて開催
通信産業の根幹である電気信号について、現職の方が講師になり講義を行う。実際に信号機の仕組み等を体験し、多様な通信建設について学んでいく。
また、動画を撮影しイベントの様子を全国の学習センターに届ける事とした。

R7 成果：　普段の生活に欠かせない信号機から電気通信を学ぶことで、通信建設の多様性を感じ、面白いと思うきっかけとなっていた。

H.　産業教育フェア視察　（詳細後述）

R7 取組：　ショッピングモールを会場とする産業教育フェアにおいて、小さな子どもやファミリー層を主な対象に、VR を活用した「鉄塔昇塔体験」を開催

R7 成果：　小学校、中学校の子供達が将来、工業高校、通信建設業へ興味を持ってもらえる足掛かりとして期待できた。

I. WEB　サイトの保守運用

R7 取組：　通建プラットフォームに R7 年度意識調査アンケート掲載
事業 PR 動画掲載、IT パスポート e ラーニング掲載

R7 成果：　通建プラットフォームに e ラーニング等を掲載する事で、通信建設等に興味のある学校が、授業等で活用できる。

J. 意識調査アンケート （詳細後述） R7 取組:アンケート項目見直し。成果報告書とQRコードを読み込み回答するアンケート用紙を郵送し、架電にて協力を要請。各教育委員会にて理解呼びかけ。 R7 成果:高校 27 校 1586 名 / 専門学校 15 校 計 303 名 （詳細後述）

第 2 項 事業推進体制の整備

○事業を推進する上で設置した会議

会議名①	令和 7 年度「専修学校による地域産業中核人材養成事業」実施委員会		
目的・役割	事業計画・事業活動方針の策定、部会への作業指示、 活動内容の承認・評価、活動成果の評価		
検討の 具体的内容	事業目的と推進協力のコンセンサスを得る。 全体のスケジュールと令和 6 年度実施項目確認。 イベント及び連携プログラム開発、並びに実証の仕様の承認。 調査結果・開発成果の評価、成果物の承認などに関する討議。 実働により確認された課題と次年度申し送り事項(優先事項)を協議。		
委員数	13 人	開催回数	4 回

令和 7 年度「専修学校による地域産業中核人材養成事業」実施**委員会の構成委員**

氏名		所属・職名	役割等	都道府県名
1	小菅 厚	学校法人中央情報学園 中央情報専門学校	調査・開発協力・評価	埼玉県
2	市川 直洋	学校法人中央情報学園 中央情報専門学校 副校長	調査・開発協力・評価	埼玉県
3	中西 徳孝	学校法人麻生塾 麻生専門学校グループ 麻生情報ビジネス専門学校	調査・開発協力・評価	福岡県
4	高橋 秀夫	埼玉県教育局県立学校部 高校教育指導課産業教育・キャリア教育担当 指導主事	調査・開発協力・評価	埼玉県
5	後藤 泰介	埼玉県立川口工業高等学校 進路指導部	調査・開発協力・評価	埼玉県
6	佐藤 幸一	埼玉県立三郷工業技術高等学校 情報通信科	調査・開発協力・評価	埼玉県

7	万沢　一成	埼玉県立大宮工業高等学校 電気科	調査・開発協力・ 評価	埼玉県
8	湯山　俊樹	学校法人山口松陰学園 松蔭高等学校　校長	調査・開発協力・ 評価	山口県 東京都
9	唐澤　輝	学校法人佐藤学園 ヒューマンキャンパス高等学校東日本ブロック長	調査・開発協力・ 評価	埼玉県
10	平原　俊和	株式会社東京リーガルマインド　公共事業本部　統括責任者	事業統括	東京都
11	篠原　佑太	株式会社東京リーガルマインド 事業責任者	事業統括	東京都
12	若林　則子	株式会社東京リーガルマインド 公共事業本部	事業統括	東京都
13	川嵜　正人	株式会社東京リーガルマインド	事業統括	東京都

第 3 項　意識調査アンケートの実施

〇事業を推進する上で実施した調査

意識調査アンケート（1）高校生を対象とした意識調査 （2）専門学校生を対象とした意識調査 （3）企業を対象とした意識調査
電気通信工事業界の認知度測定、経年推移測定 業界の認知度の段階的向上・業界に対するイメージ向上
（1）全国の工業高等学校、情報通信科・情報技術科に在籍する高校生1年生・2年生 （2）全国の電検3種、通信技術、電気主任技術を学べる専門学校 （3）イベントに参加した協力企業
WEBアンケート ① 教育委員会へアンケート協力のお願い ② 学生：意識調査の対象となる学科設置校を検索・抽出、学校長・教頭・学科担当教員宛に事前にアンケートQRコードと説明文を郵送、内容をご確認頂いた上で、架電にて学生への配布を依頼。 ③ 企業：イベントに参加した際にWEBアンケートのQRコード用紙をお渡しして、ご協力頂く。
① 電気通信建設業界、就職、進路選択、学校生活、進路選択に対する意識等　31～32 項目 ② 企業：高校生、専門学校生、通関業界、高専連携事業への意識等
※ アンケート結果の分析内容（集計項目）は、グラフにてご後述
全国の高校対象学科設置校 27 校 1586 名、専門学校 15 校 303 名より回答を取得。

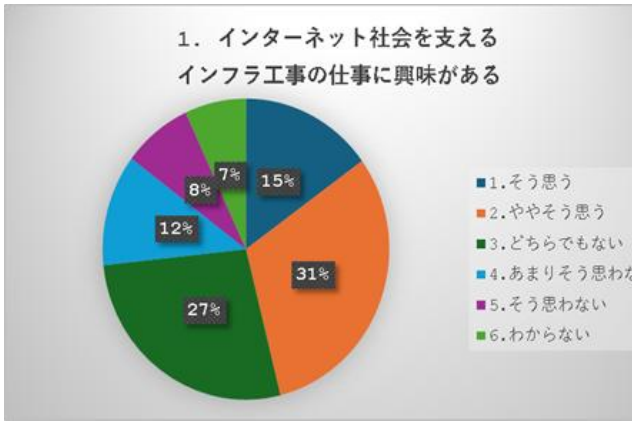
高等学校　：　27 校、計 1586 名

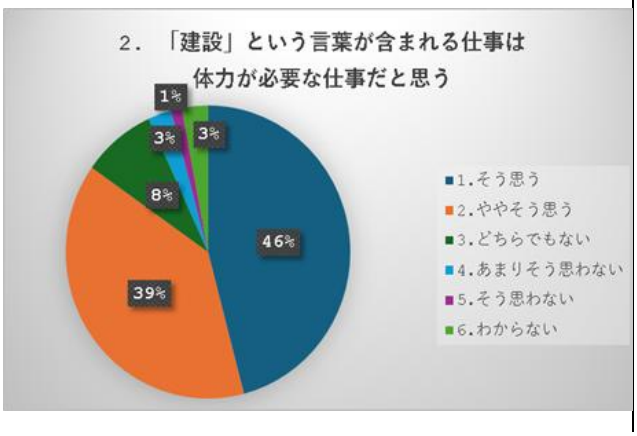
【高校アンケート回答学校一覧】

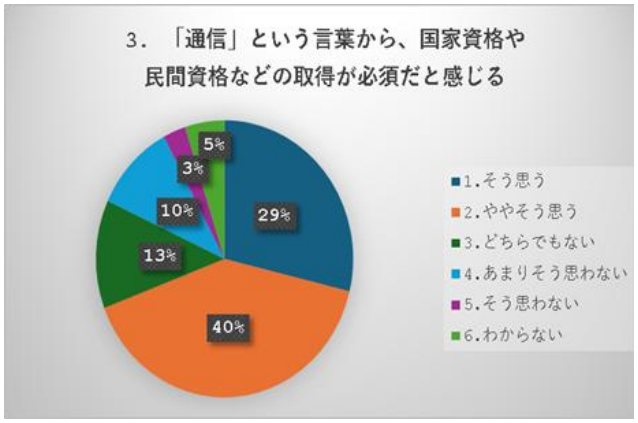
県名	学校名	県名	学校名
北海道	北海道旭川工業高等学校	神奈川	神奈川県立藤沢工科高等学校
	北海道札幌琴似工業高等学校	岐阜	岐阜県立可児工業高等学校
	北海道苫小牧工業高等学校	静岡	静岡県立科学技術高等学校
青森	青森県立弘前工業高等学校	兵庫	兵庫県立兵庫工業高等学校
	青森県立八戸工業高等学校	島根	島根県立松江工業高等学校
宮城	宮城県工業高等学校	岡山	岡山県立笠岡工業高等学校
	宮城県登米総合産業高等学校		岡山県立水島工業高等学校
山形	山形県立鶴岡工業高等学校	高知	高知県立宿毛工業高等学校
	山形県立米沢鶴城高等学校	鹿児島	鹿児島県立鹿児島工業高等学校
福島	福島県立会津工業高等学校		鹿児島情報高等学校
栃木	栃木県立那須清峰高等学校	沖縄	沖縄県立浦添工業高等学校
埼玉	埼玉県立三郷工業技術高等学校		沖縄県立宮古工業高等学校
	埼玉県立大宮工業高等学校	福岡市	福岡市立博多工業高等学校
千葉	千葉県立東総工業高等学校		計27校

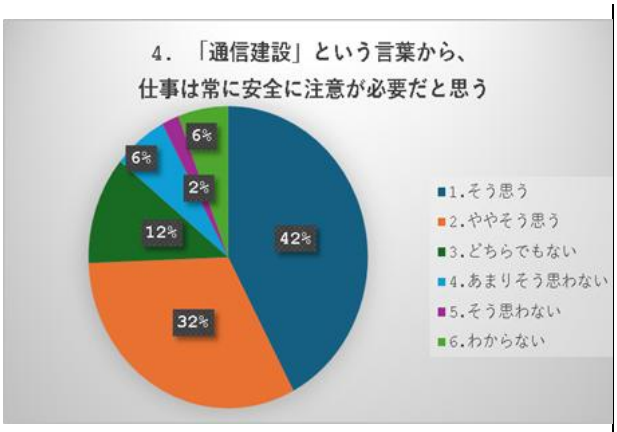
調査結果	高校生アンケートへの回答集計結果（n＝1586 名） 1学年　898 名　　2学年　688 名

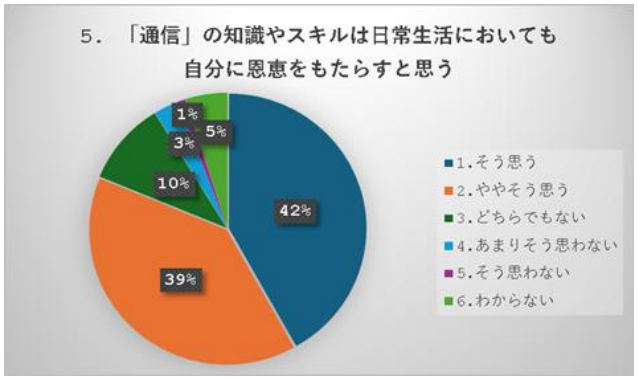
通建業界に対するイメージ

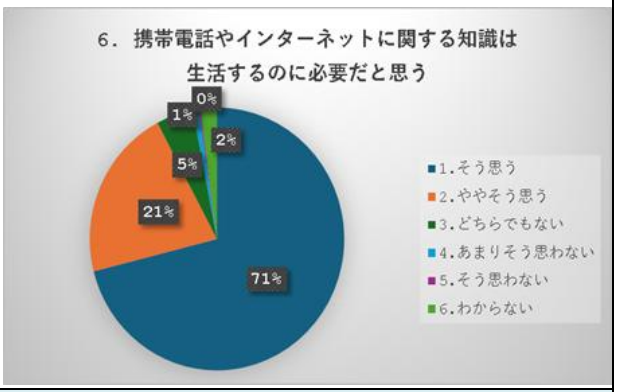




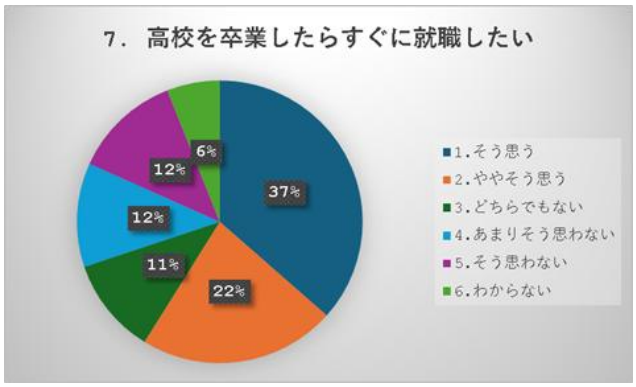

3．「通信」という言葉から、国家資格や
民間資格などの取得が必須だと感じる
29%
40%
13%
10%
3%
5%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わない
5.そう思わない
6.わからない

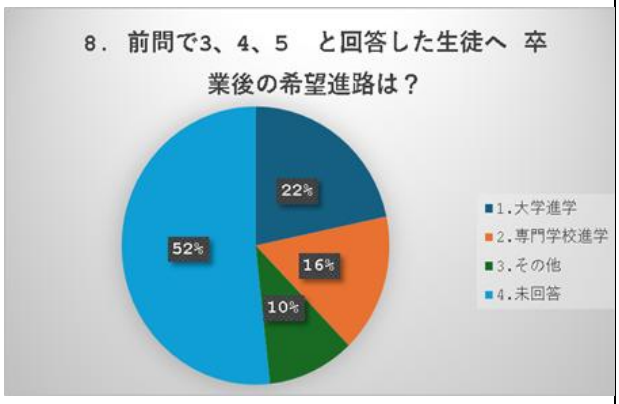

4．「通信建設」という言葉から、
仕事は常に安全に注意が必要だと思う
42%
32%
12%
6%
2%
6%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わない
5.そう思わない
6.わからない

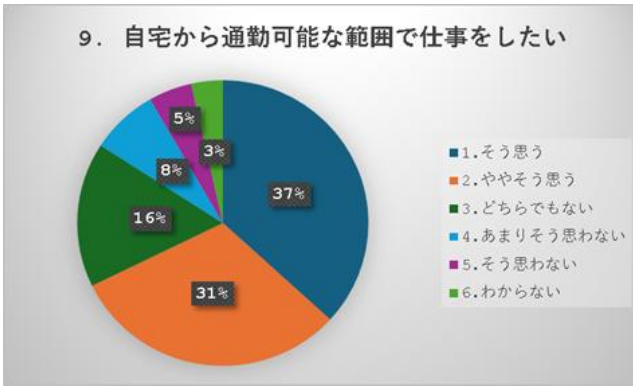

5．「通信」の知識やスキルは日常生活においても
自分に恩恵をもたらすと思う
42%
39%
10%
3%
1%
5%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わない
5.そう思わない
6.わからない

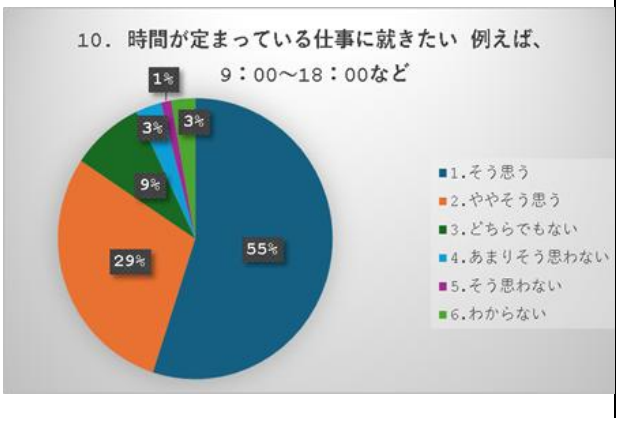

6．携帯電話やインターネットに関する知識は
生活するのに必要だと思う
71%
21%
5%
1%
0%
2%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わない
5.そう思わない
6.わからない

就職に対するイメージ

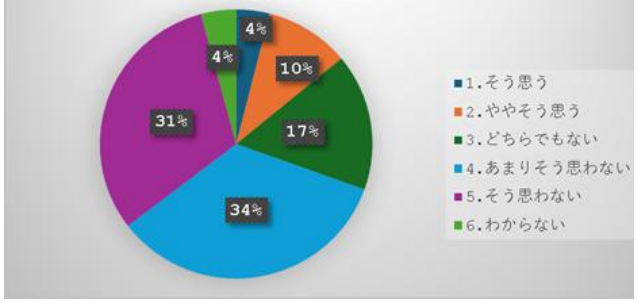

7．高校を卒業したらすぐに就職したい
37%
22%
11%
12%
12%
6%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わない
5.そう思わない
6.わからない


8．前問で3、4、5　と回答した生徒へ　卒
業後の希望進路は？
22%
16%
10%
52%
1.大学進学
2.専門学校進学
3.その他
4.未回答

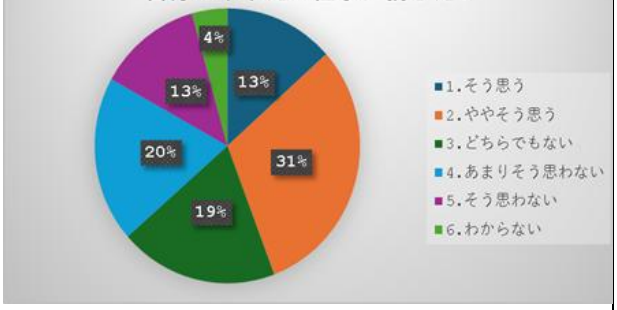

9．自宅から通勤可能な範囲で仕事をしたい
37%
31%
16%
8%
5%
3%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わない
5.そう思わない
6.わからない


10．時間が定まっている仕事に就きたい 例えば、
9：00～18：00など
55%
29%
9%
3%
1%
3%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わない
5.そう思わない
6.わからない

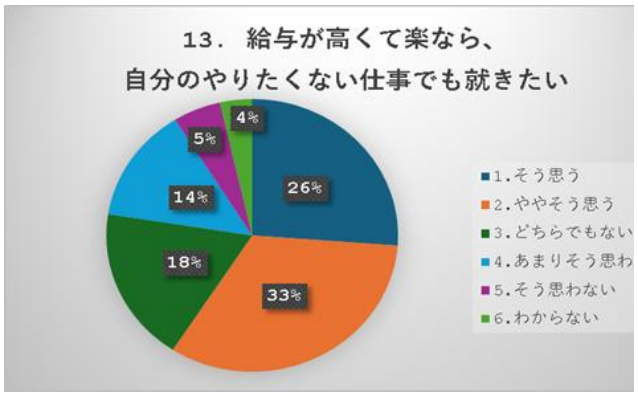
11．給料は低くてやりたく無い仕事でも、楽な仕事に就きたい



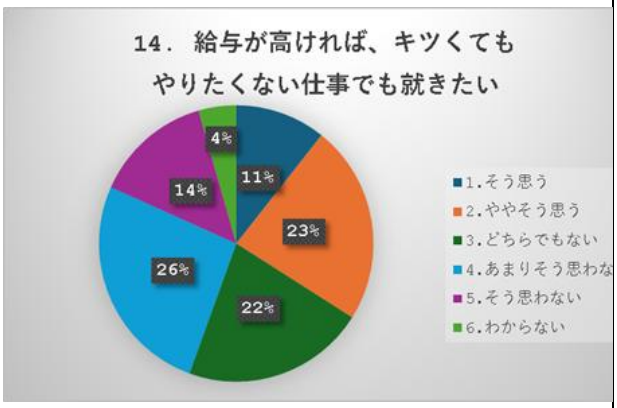
12．給与は低くてキツくても、自分のやりたい仕事に就きたい



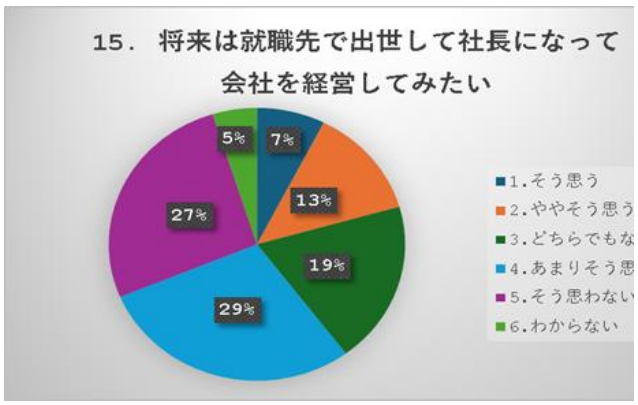
13．給与が高くて楽なら、自分のやりたくない仕事でも就きたい



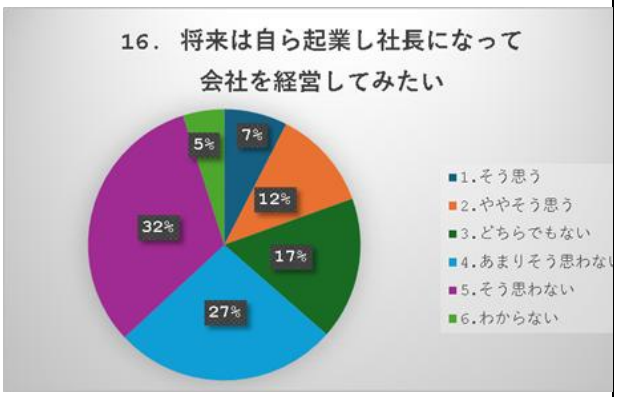
14．給与が高ければ、キツくてもやりたくない仕事でも就きたい



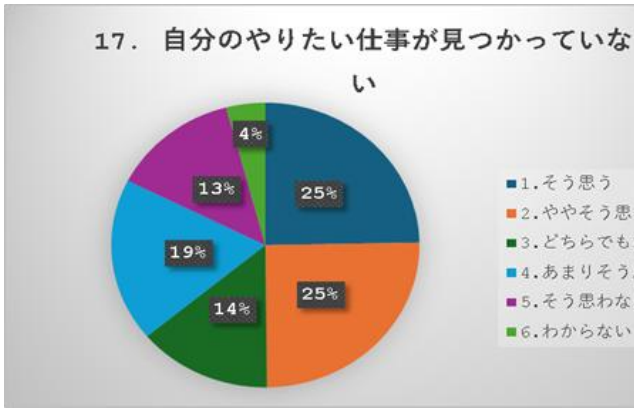
15．将来は就職先で出世して社長になって会社を経営してみたい



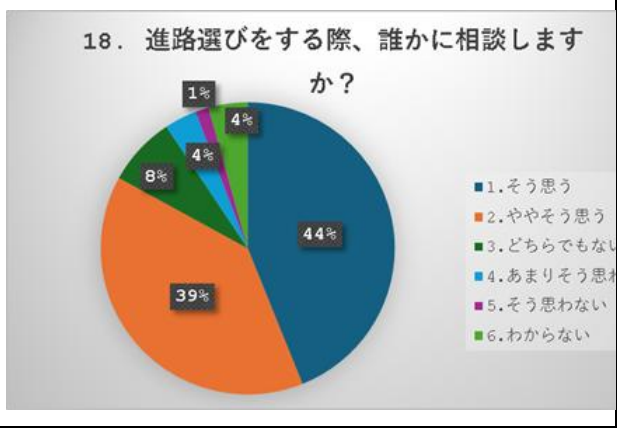
16．将来は自ら起業し社長になって会社を経営してみたい

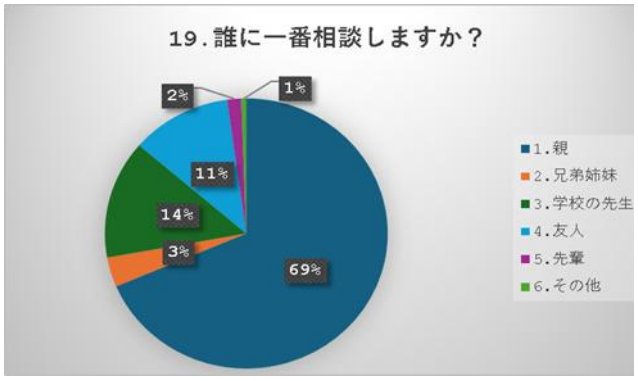


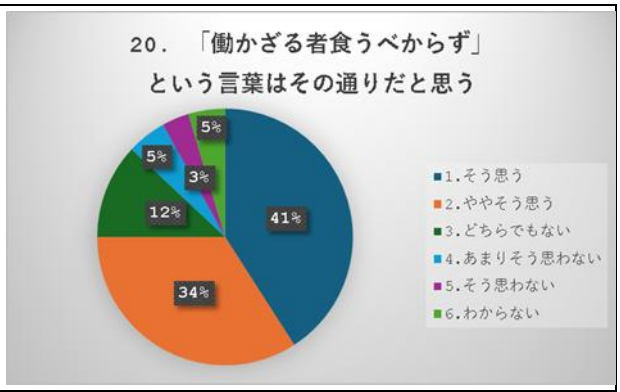
17．自分のやりたい仕事が見つかっていない



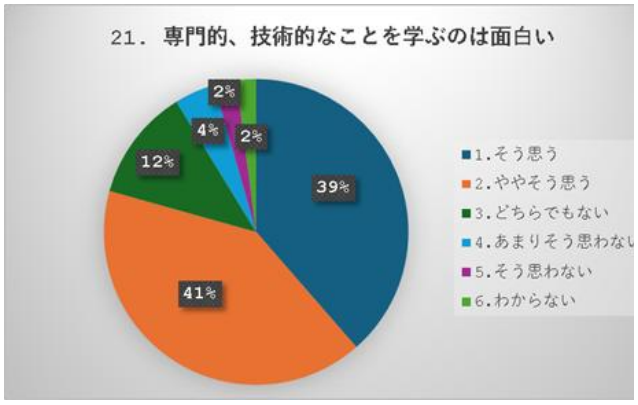
18．進路選びをする際、誰かに相談しますか？

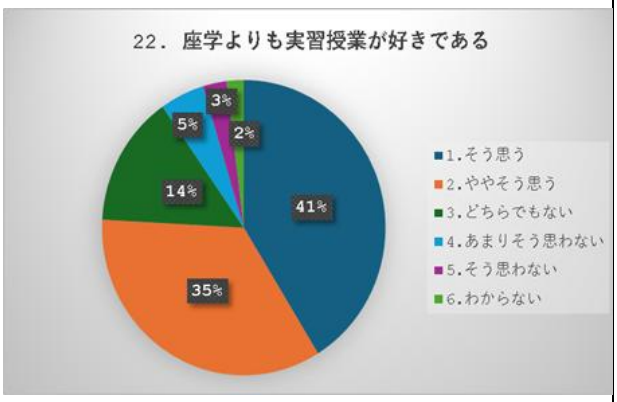


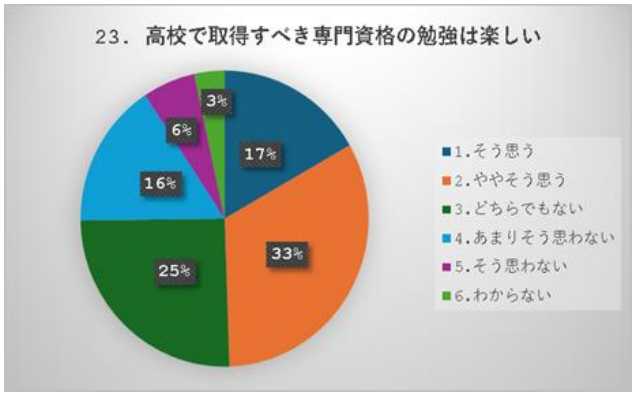


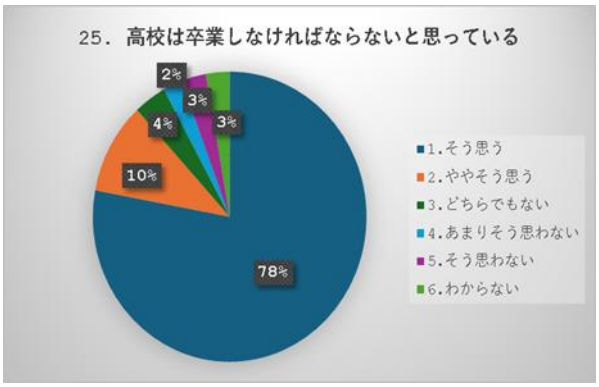


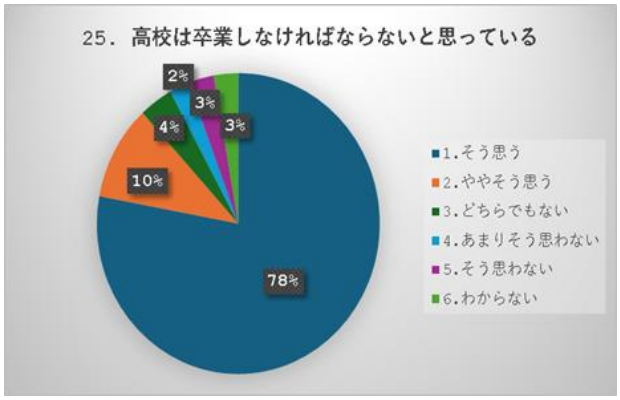
高校生活に対するイメージ

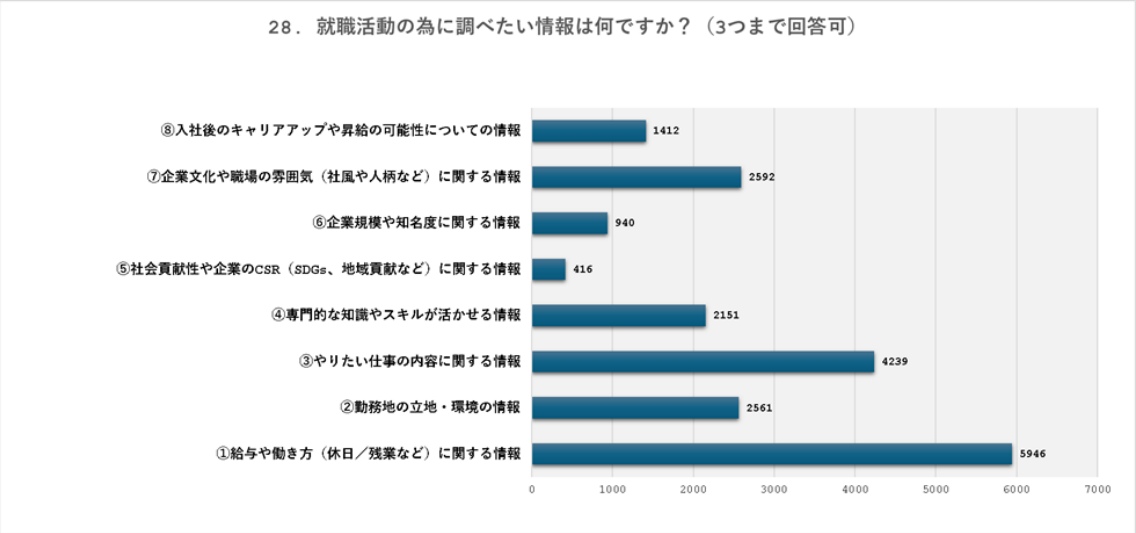




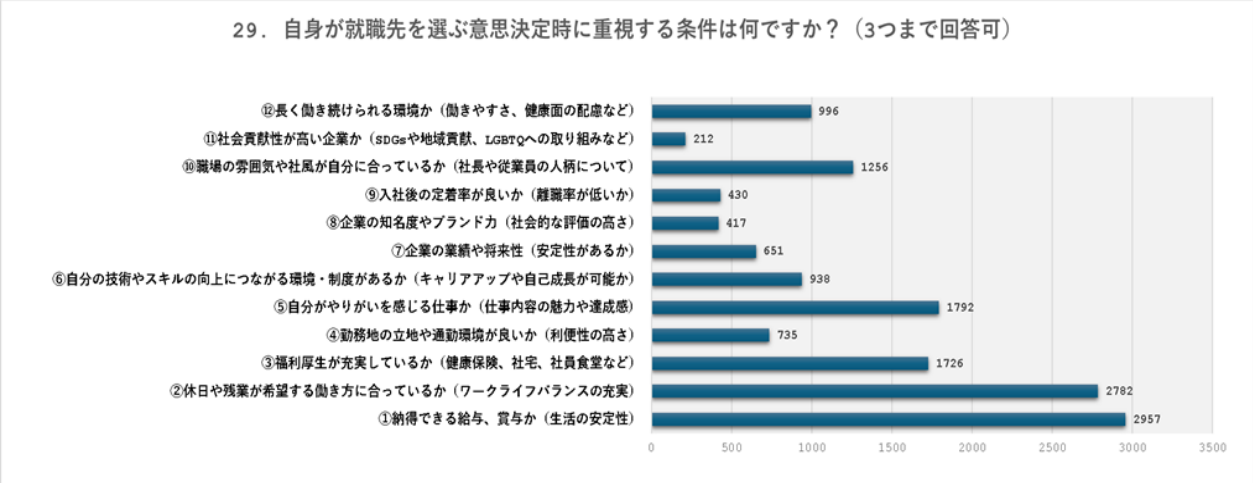




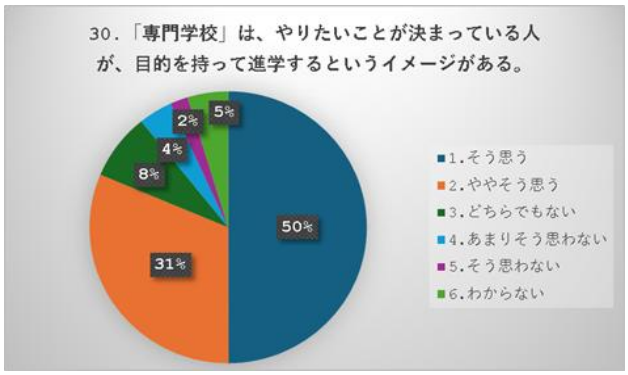


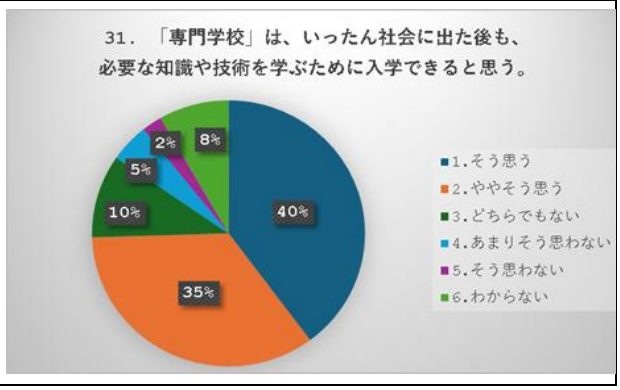


進路選択に対するイメージ



専門学校に対するイメージ





全国の情報系の専門学校の生徒

【アンケート回答専門学校校一覧】

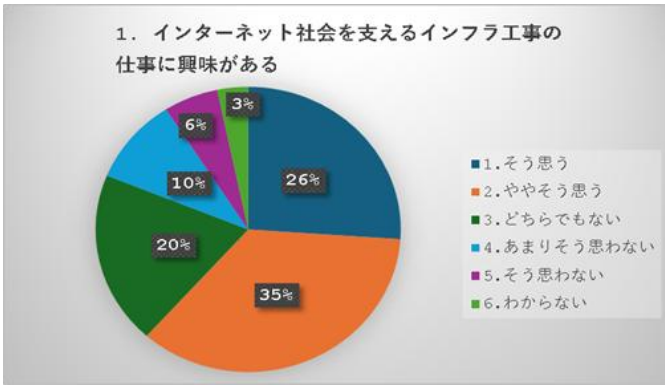
専門学校 ： 15 校、計 303 名

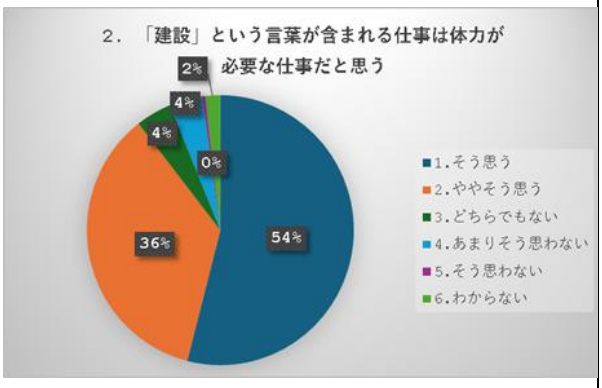
学校名
Ｗｉ Ｚ国際情報工科自動車大学校
ユービック情報専門学校
岡山科学技術専門学校
金沢科学技術大学校
九州中央リハビリテーション学院
新潟工科専門学校
専門学校広島工学院大学校
大阪工業技術専門学校
中央情報大学校
東北電子専門学校
日本工学院専門学校
日本工学院専門学校（蒲田キャンパス）
日本工学院八王子専門学校
日本工学院北海道専門学校
日本電子専門学校

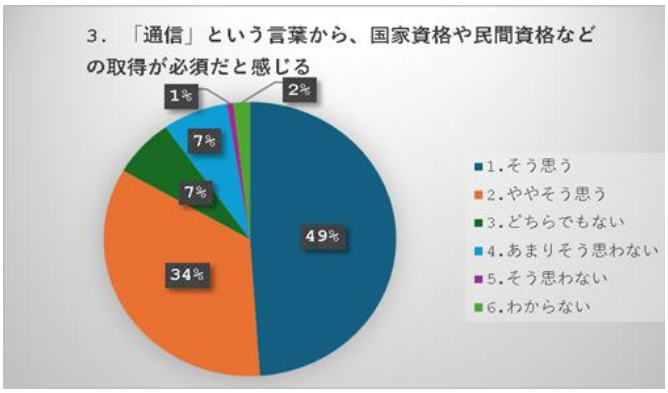
国籍	件数
イギリス	1
カンボジア	1
その他	1
ネパール	1
ベトナム	13
ミャンマー	6
台湾	1
中国	15
日本	264

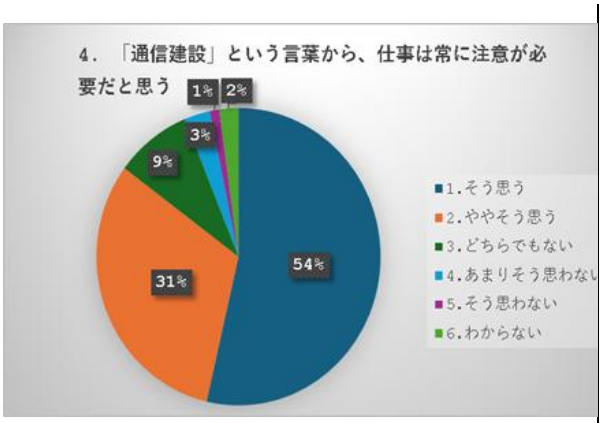
調査結果	専門学校アンケートへの回答集計結果（n＝303）

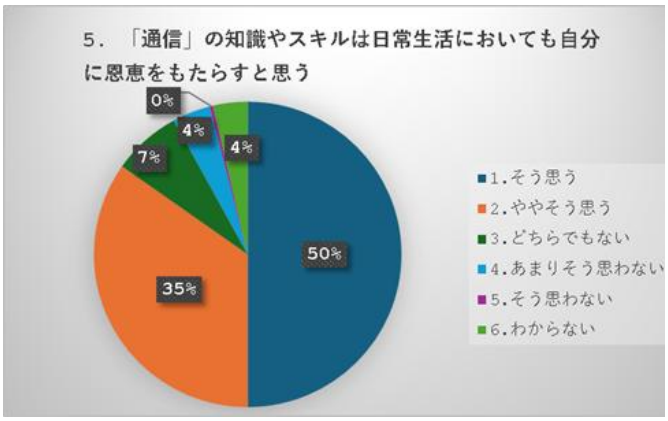
通建業界に対するイメージ

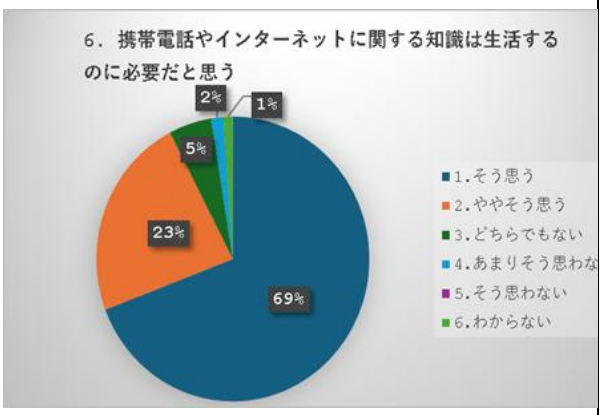


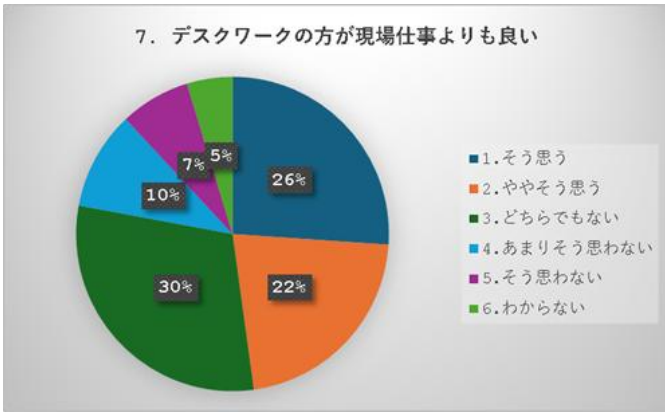


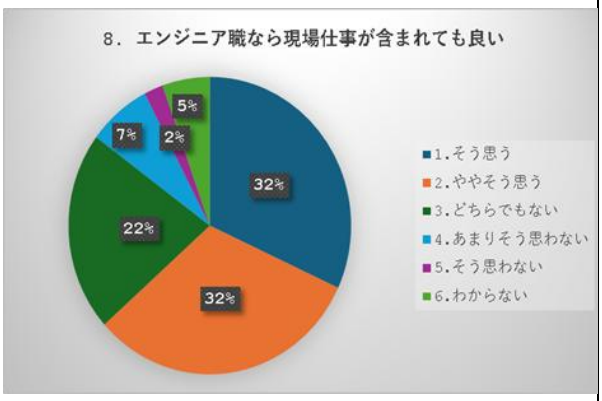

3．「通信」という言葉から、国家資格や民間資格などの取得が必須だと感じる
1%
2%
7%
7%
49%
34%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わない
5.そう思わない
6.わからない

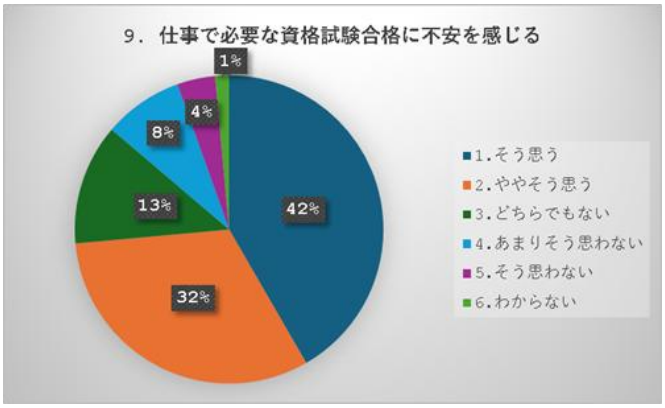

4．「通信建設」という言葉から、仕事は常に注意が必要だと思う
1%
2%
3%
9%
54%
31%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わない
5.そう思わない
6.わからない

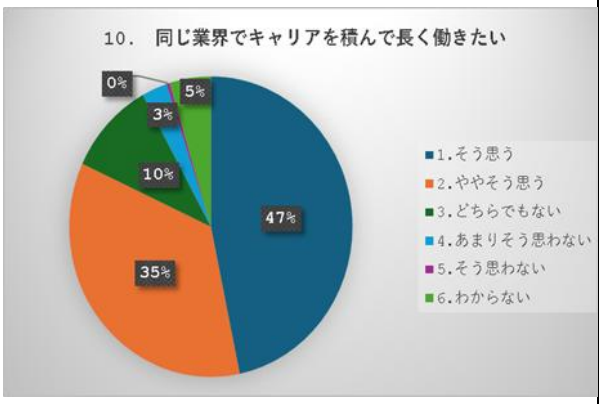

5．「通信」の知識やスキルは日常生活においても自分に恩恵をもたらすと思う
0%
4%
7%
4%
50%
35%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わない
5.そう思わない
6.わからない


6．携帯電話やインターネットに関する知識は生活するのに必要だと思う
2%
1%
5%
23%
69%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わない
5.そう思わない
6.わからない

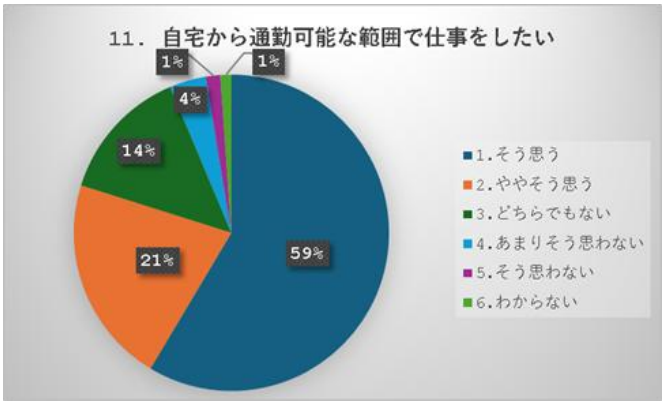

7．デスクワークの方が現場仕事よりも良い
7%
5%
10%
26%
30%
22%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わない
5.そう思わない
6.わからない

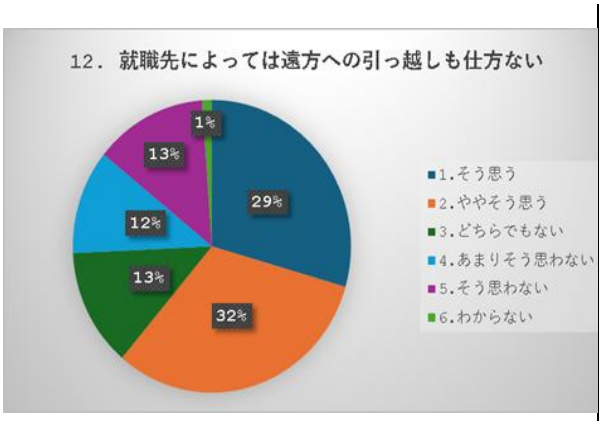

8．エンジニア職なら現場仕事が含まれても良い
5%
7%
2%
32%
22%
32%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わない
5.そう思わない
6.わからない

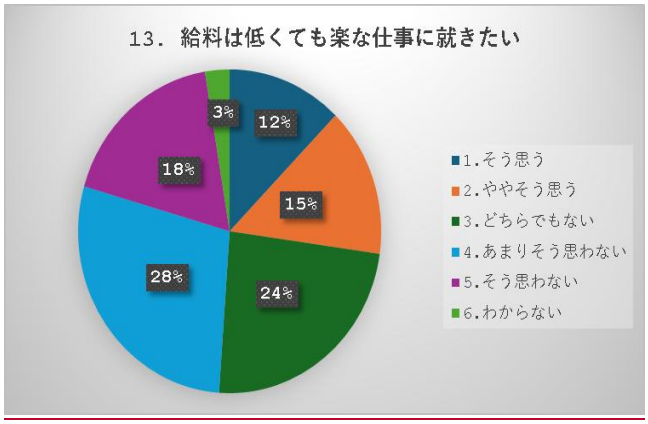

9．仕事で必要な資格試験合格に不安を感じる
1%
4%
8%
13%
42%
32%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わない
5.そう思わない
6.わからない

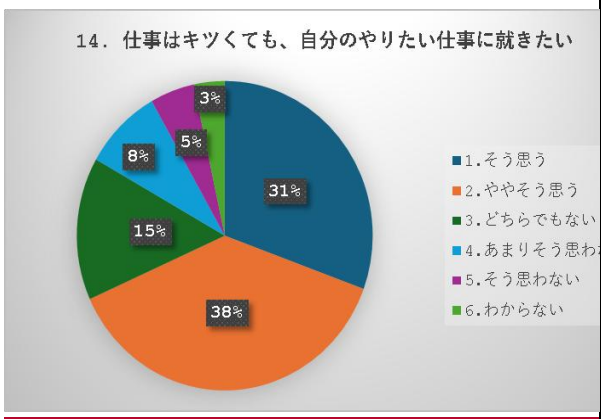

10．同じ業界でキャリアを積んで長く働きたい
0%
3%
5%
10%
47%
35%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わない
5.そう思わない
6.わからない

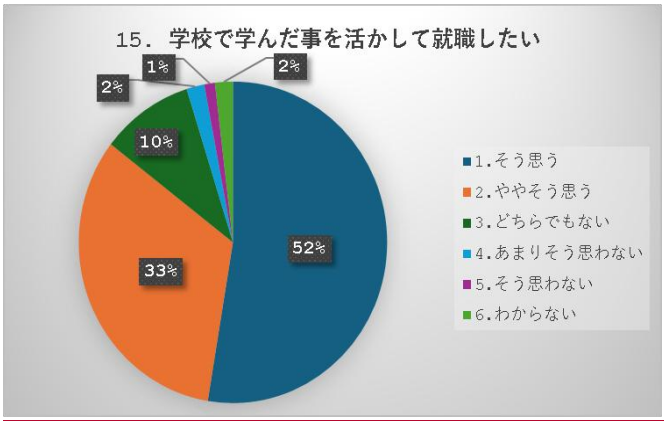
就職に対するイメージ

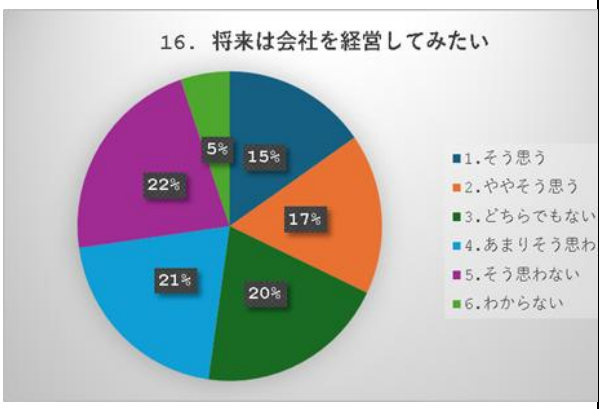

11．自宅から通勤可能な範囲で仕事をしたい
1%
1%
4%
14%
21%
59%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わない
5.そう思わない
6.わからない

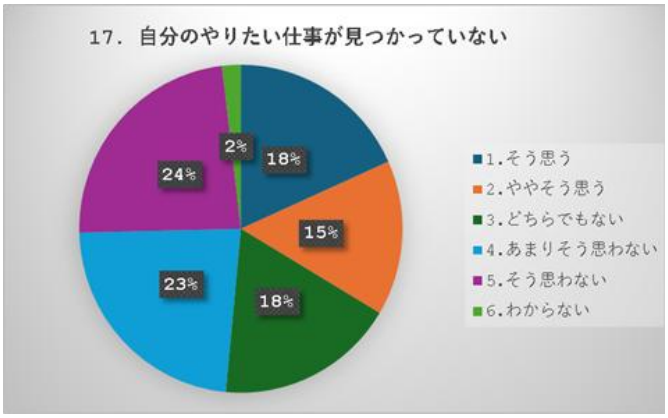

12．就職先によっては遠方への引っ越しも仕方ない
1%
13%
29%
12%
13%
32%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わない
5.そう思わない
6.わからない

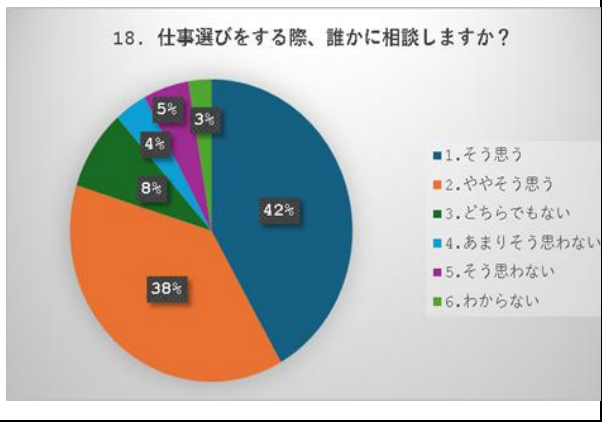

13．給料は低くても楽な仕事に就きたい
3%
12%
18%
15%
28%
24%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わない
5.そう思わない
6.わからない

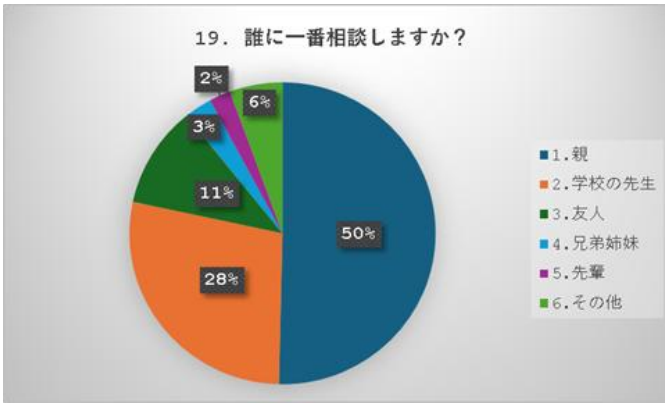

14．仕事はキツくても、自分のやりたい仕事に就きたい
3%
5%
8%
31%
15%
38%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わ
5.そう思わない
6.わからない

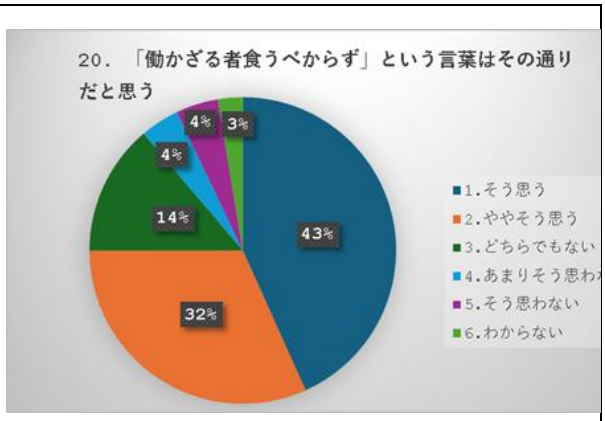

15．学校で学んだ事を活かして就職したい
1%
2%
2%
10%
52%
33%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わない
5.そう思わない
6.わからない


16．将来は会社を経営してみたい
5%
15%
22%
17%
21%
20%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わ
5.そう思わない
6.わからない

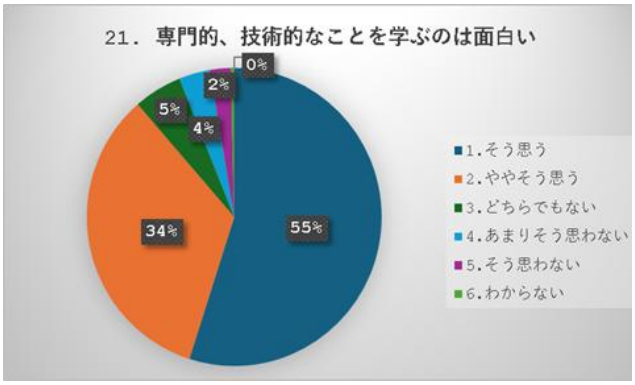

17．自分のやりたい仕事が見つかっていない
2%
18%
24%
15%
23%
18%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わない
5.そう思わない
6.わからない

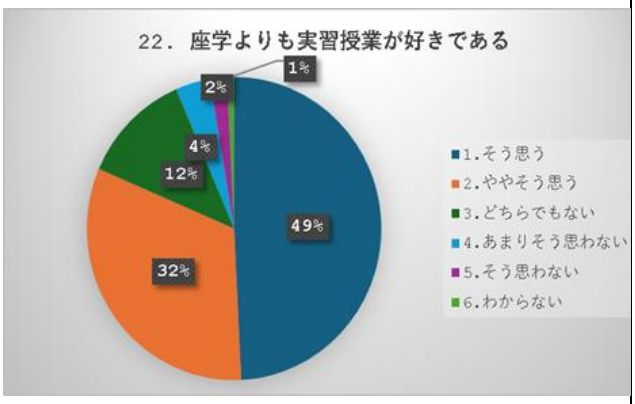

18．仕事選びをする際、誰かに相談しますか？
5%
3%
4%
8%
42%
38%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わない
5.そう思わない
6.わからない

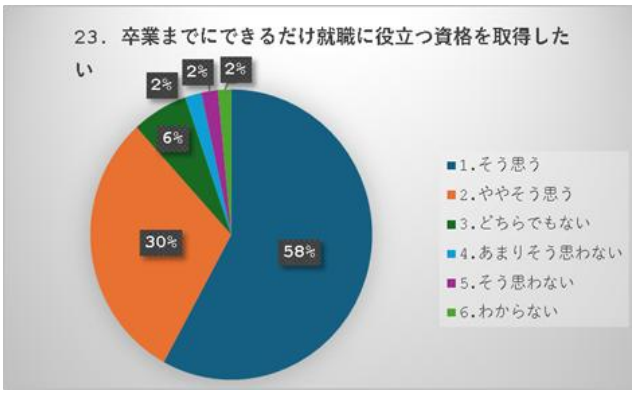


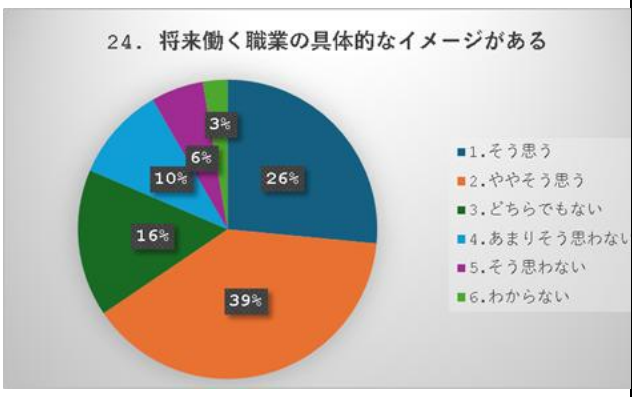


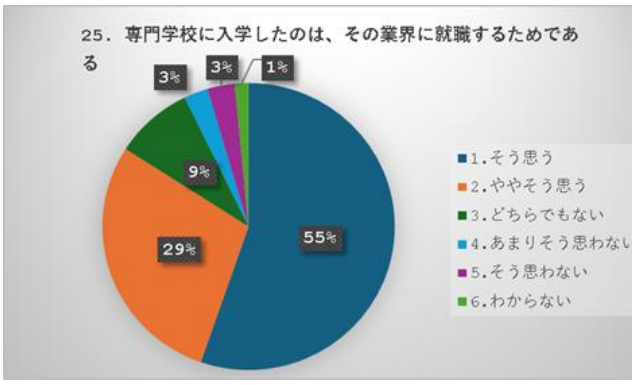
専門学校生活に対するイメージ

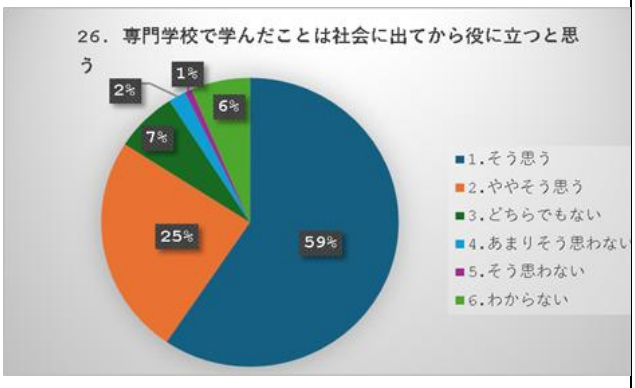


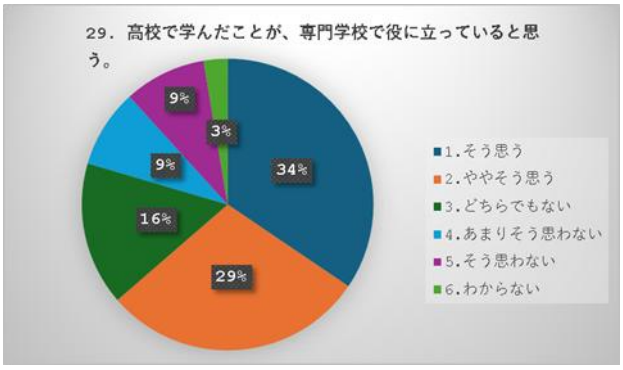




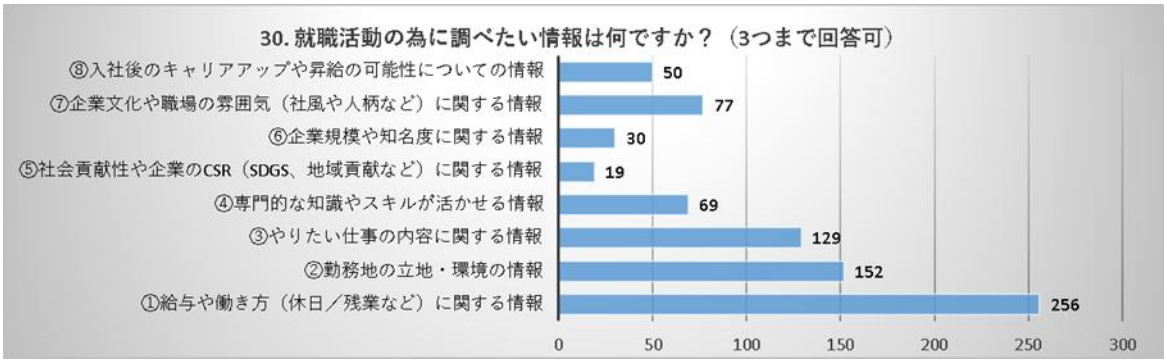


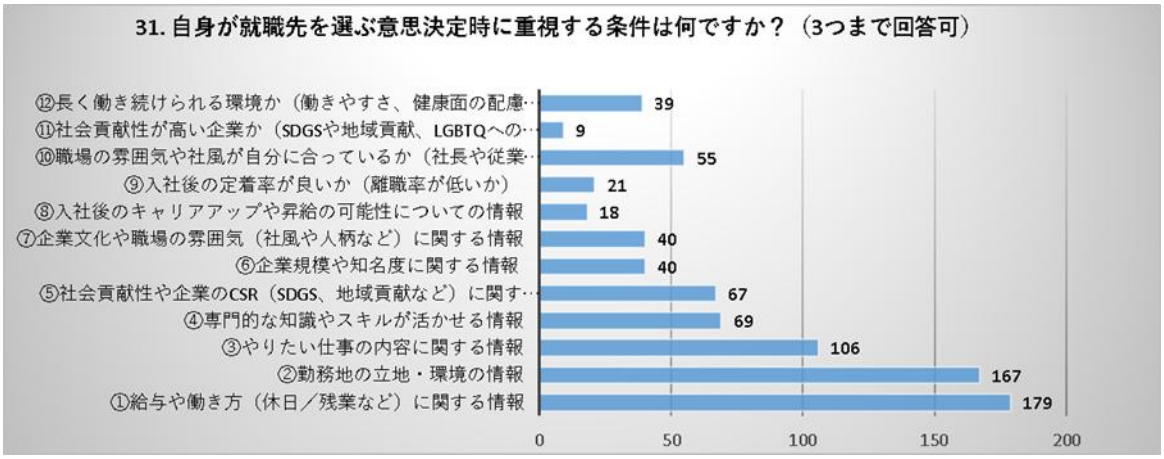






進路選択に対するイメージ





【専門学生向けアンケート要約】

◇ 通建業界に対するイメージ

通建業界については、社会に必要な仕事、インフラを支える重要な職種という理解はあるものの、

仕事内容やキャリアパスを十分にイメージできていない学生も多い。

特に、入社後の成長過程や将来像が見えにくい点が、不安要素として挙げられている。

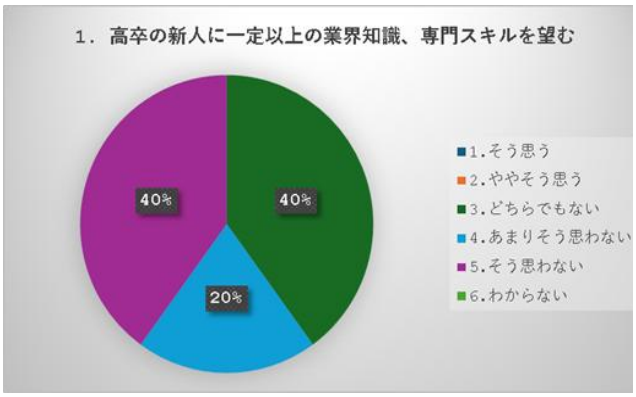
◇ 就職に対するイメージ

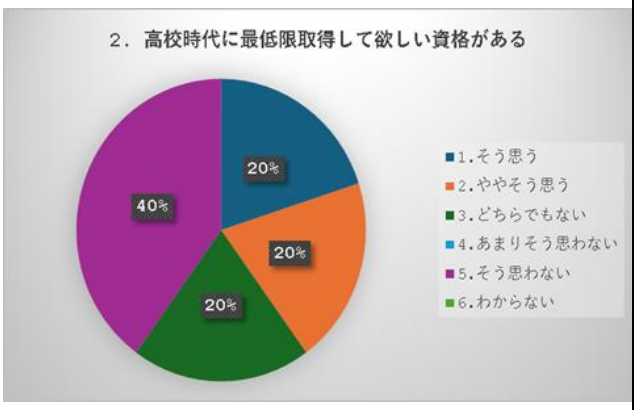
就職にあたって重視されているのは、「給与・待遇」「休日・労働時間」「働きやすさ」といった現実的な条件である。
◇ 専門学校生活に対するイメージ
専門学生は、自ら選択した分野に対する関心や学習意欲が高い傾向にある。
専門的・技術的な内容についても、「実践的で将来に役立つ」と前向きに捉えている学生が多く見られた。
一方で、**「学んだことを活かせる仕事に就きたい」**という意識も一定数確認され、高校生と比べて職業意識はより具体的である。
◇進路選択に対するイメージ
学生からは、現場の具体的な仕事内容、実際に働く人の声、キャリアモデルの提示といった、よりリアルで具体的な情報提供を求める声が多く見られた。
学校と企業が連携し、実践的な情報を届けることが、就職意欲の向上につながると考えられる。

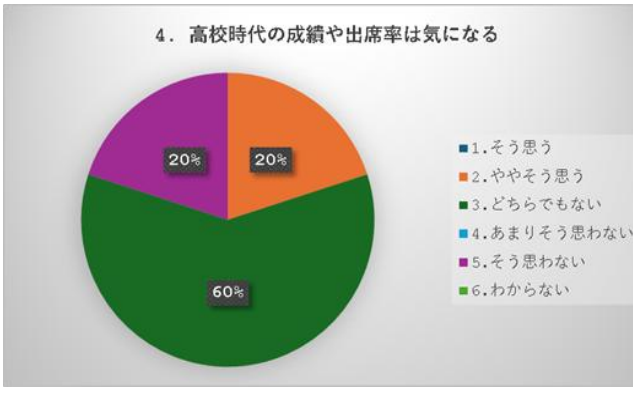
ミライトワン市川研修センターに協力企業5社にご協力いただいた結果

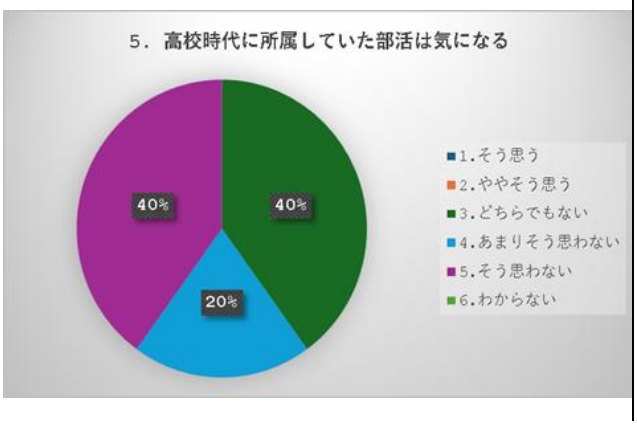
通建業界企業アンケートへの回答集計結果（n＝5 社）

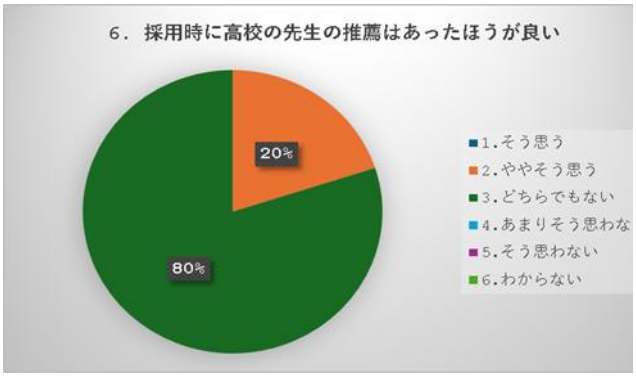
高校生に対するイメージ

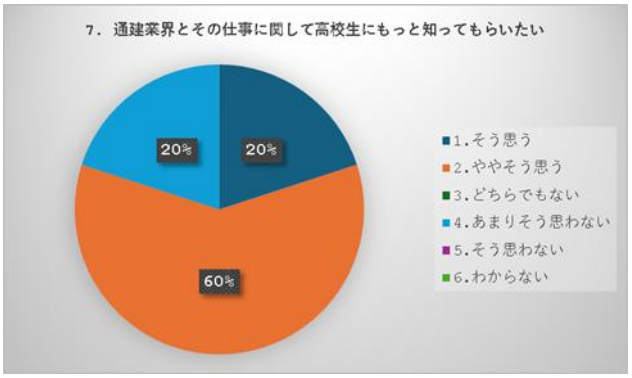


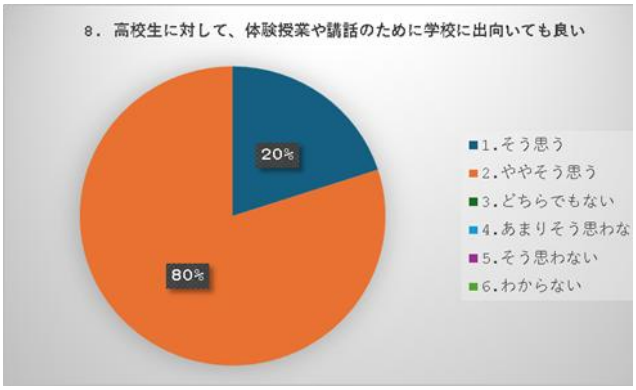


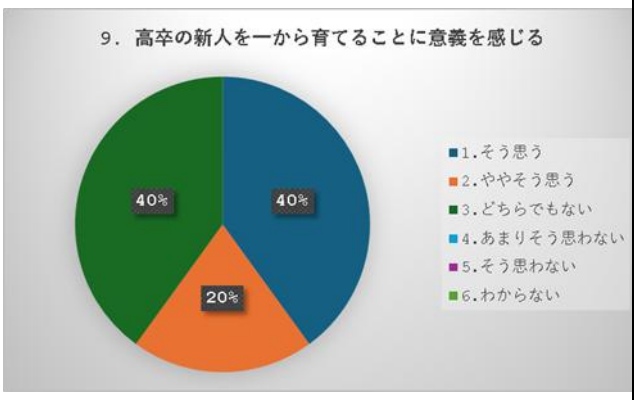


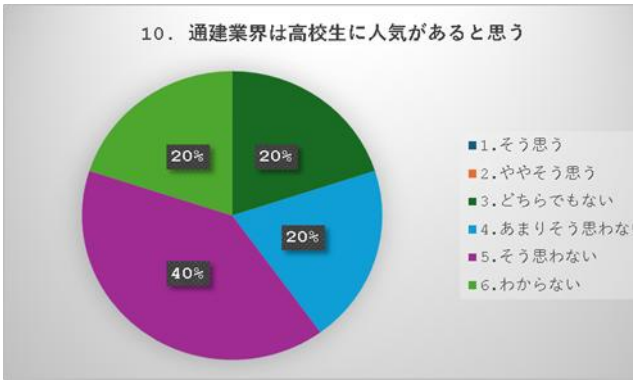


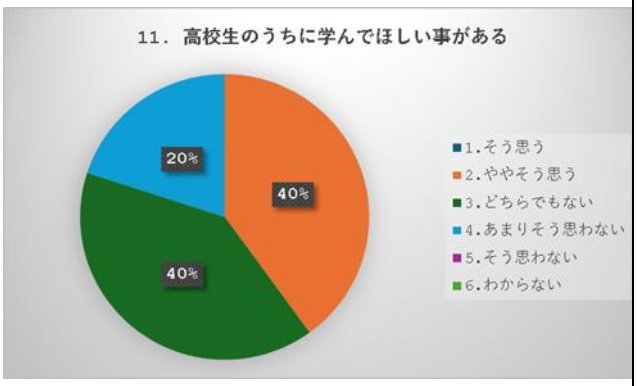




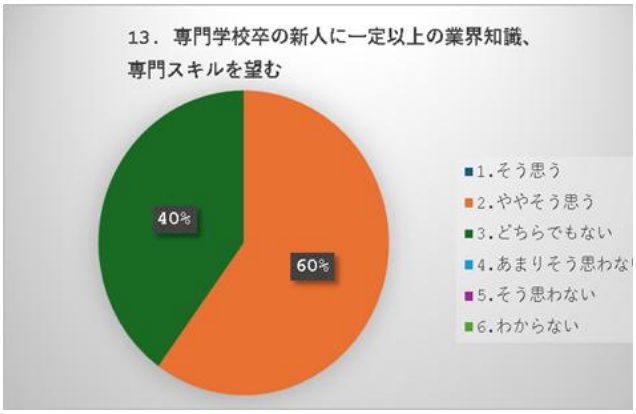


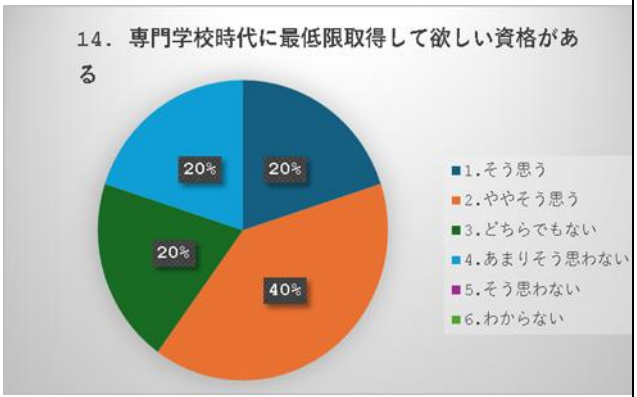


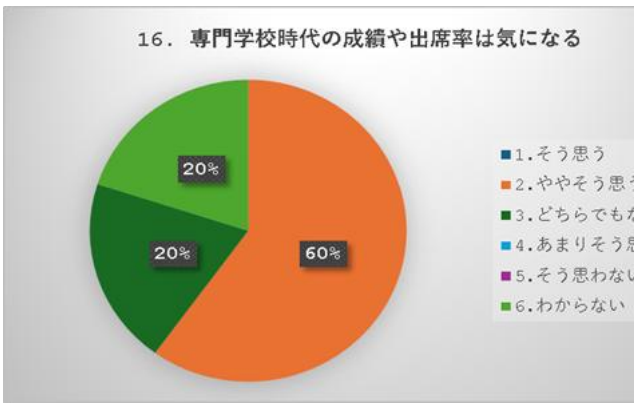


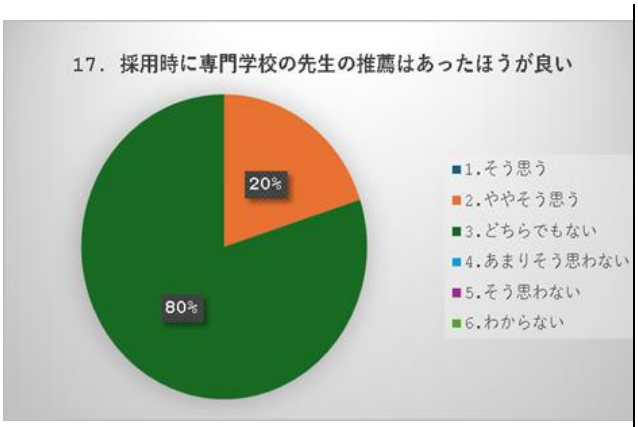


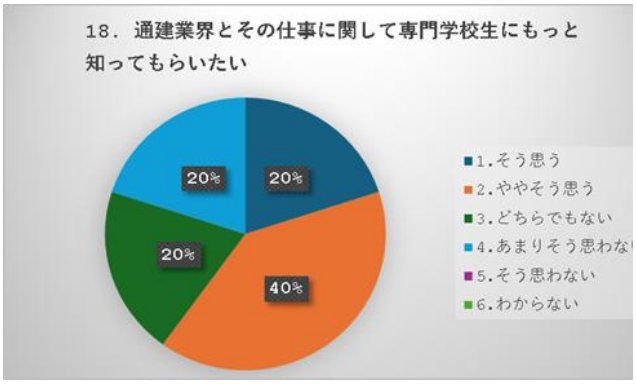
専門学校生に対するイメージ

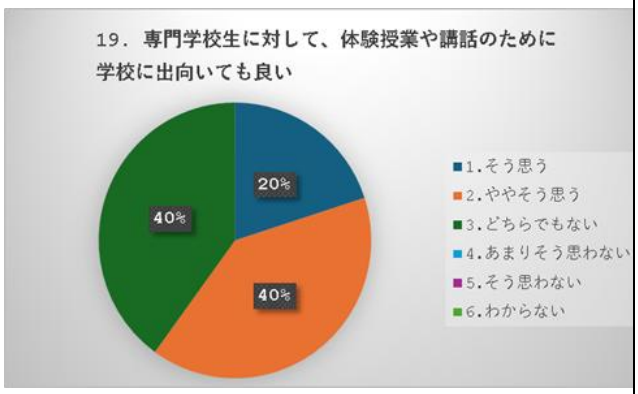


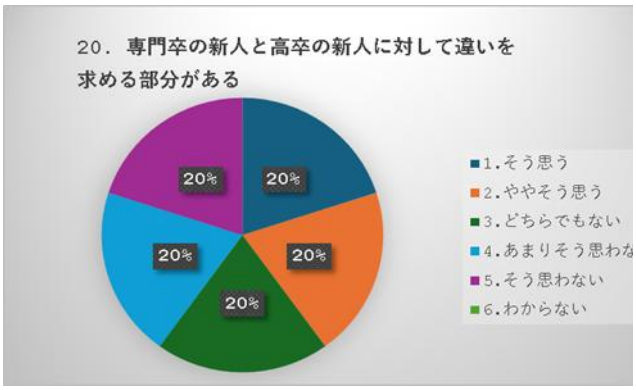


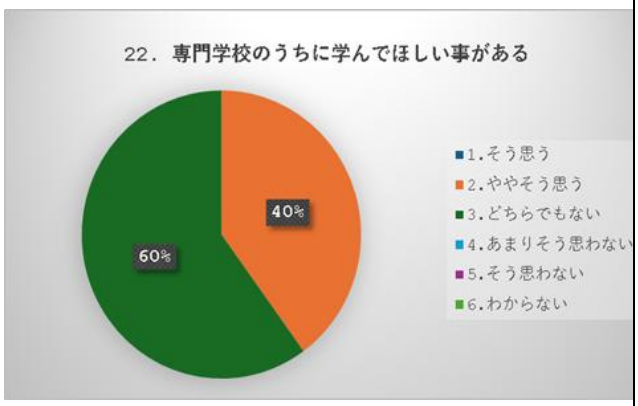

16．専門学校時代の成績や出席率は気になる
20%
20%
60%
1.そう思う
2.ややそう思
3.どちらでも
4.あまりそう
5.そう思わな
6.わからない

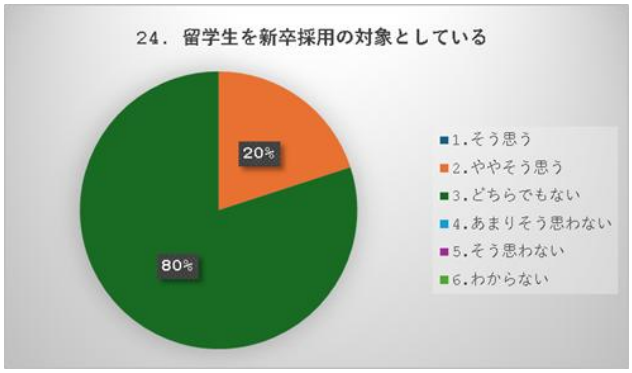

17．採用時に専門学校の先生の推薦はあったほうが良い
20%
80%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わない
5.そう思わない
6.わからない


18．通建業界とその仕事に関して専門学校生にもっと
知ってもらいたい
20%
20%
20%
40%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わな
5.そう思わない
6.わからない

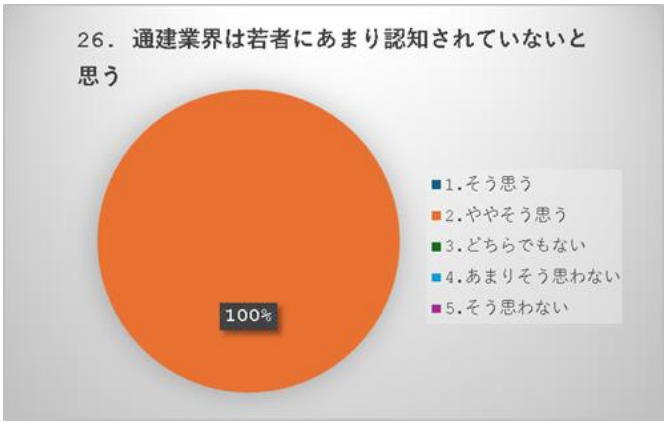

19．専門学校生に対して、体験授業や講話のために
学校に出向いても良い
20%
40%
40%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わない
5.そう思わない
6.わからない

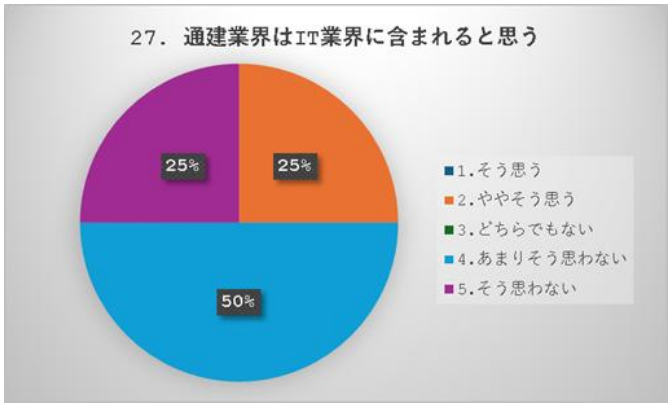

20．専門卒の新人と高卒の新人に対して違いを
求める部分がある
20%
20%
20%
20%
20%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わな
5.そう思わない
6.わからない

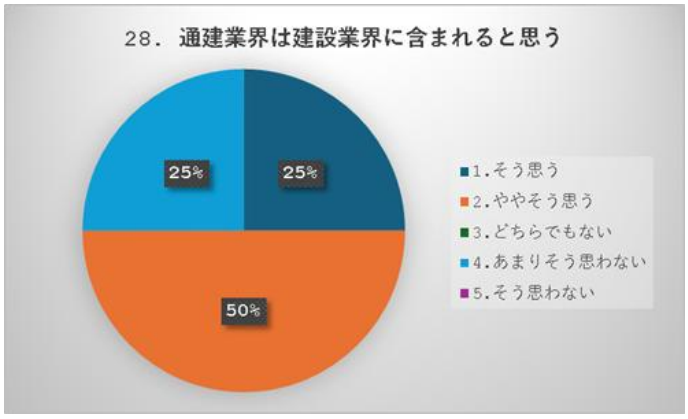

22．専門学校のうちに学んでほしい事がある
40%
60%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わない
5.そう思わない
6.わからない

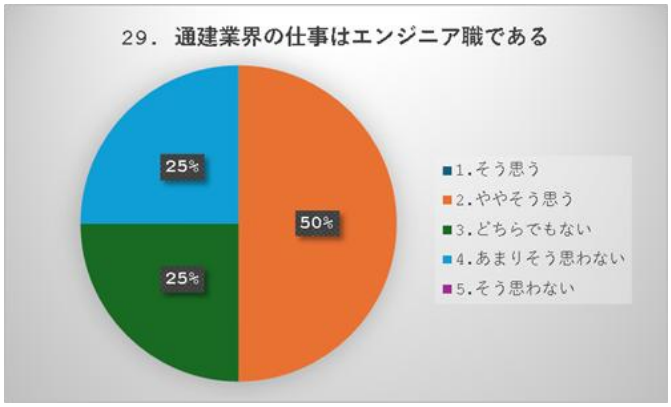

24．留学生を新卒採用の対象としている
20%
80%
1.そう思う
2.ややそう思う
3.どちらでもない
4.あまりそう思わない
5.そう思わない
6.わからない

通建業界そのもののイメージ

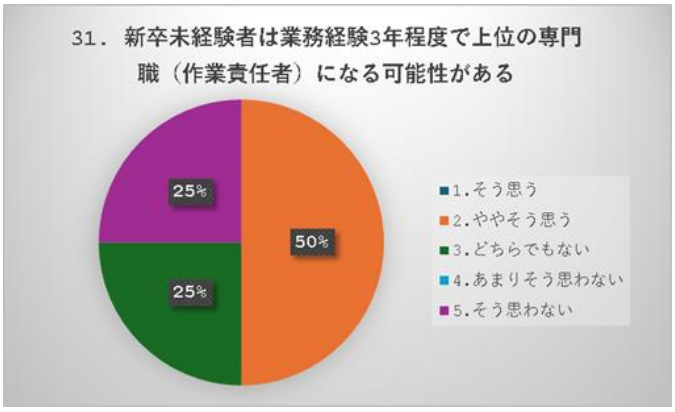


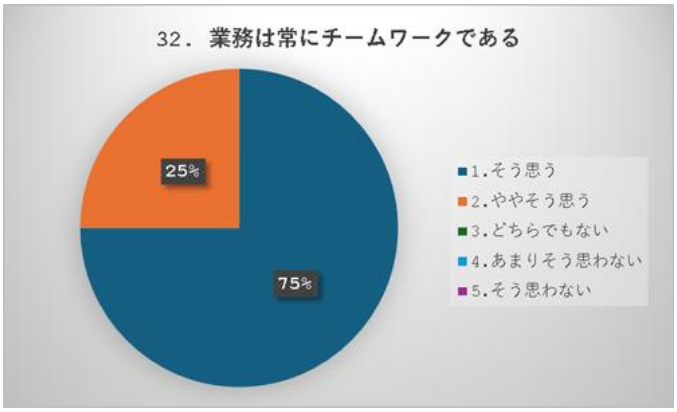


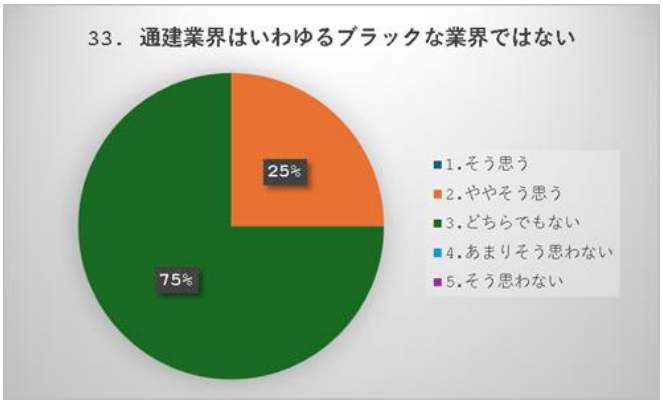




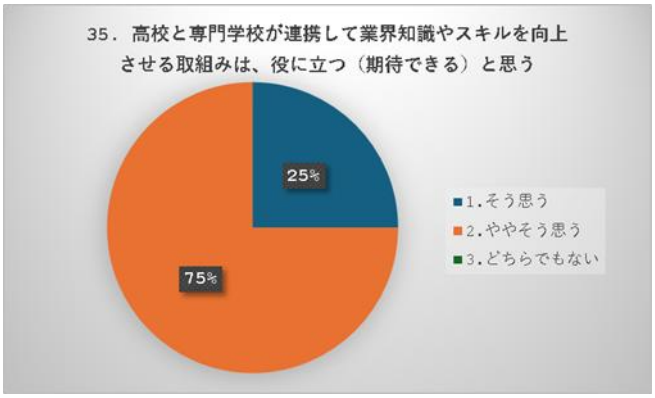


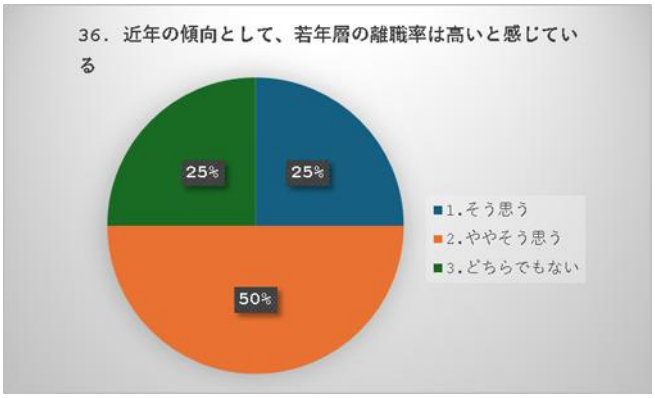






高専連携へのイメージ





【通建業界企業アンケート結果要約】

◇ 業界全体の現状認識

通建業界の企業側では、人材不足が大きな課題として強く認識されている。特に若年層の採用においては、「業界の仕事内容が十分に理解されていない」「仕事の厳しさや危険性が先行して伝わっている」といった点が、採用難の要因になっているとの認識が多く見られた。

◇ 若年層・学生に対するイメージ

高校生や若年層に対しては、「業界や職種の具体的なイメージを持てていない」「将来像が描けていない」と企業側が感じている傾向が強い。

一方で、通建業界は社会インフラを支える重要な役割を担っており、本来は誇りややりがいを伝えられる職業であるという意識も共有されている。

◇ 採用・育成に関する課題

採用後の課題としては、若手人材の定着、技術継承、教育にかかる時間・人手不足が挙げられており、即戦力確保よりも中長期的な人材育成の必要性が示唆された。

◇ 教育機関・行政への期待

今後の人材確保に向けては、学校教育との連携、体験型学習や現場見学、業界の魅力を伝える機会の創出が重要であり、業界単独ではなく、教育機関・行政と連携した取り組みが不可欠であるとの認識が示された。

【意識調査アンケート総括】

本調査では、高校生・専門学生・通建業界企業の三者を対象に意識調査を実施し、進路選択、就業観、業界理解に関する認識の違いを明らかにした。

高校生は、進路選択において「給与」「休日」「働き方」といった生活面の条件を最も重視しており、仕事内容や職業理解については十分に具体化されていない傾向が見られた。一方で、専門的・技術的な授業や実習に対する関心は高く、適切な学習機会や情報提供があれば、将来の職業イメージ形成につながる可能性が示唆された。

専門学生は、自ら選択した分野に対する学習意欲が比較的高く、「学んだことを活かせる仕事に就きたい」という意識が一定程度確認された。しかし、通建業界に対しては、仕事内容やキャリアパスが十分に可視化されておらず、就職先としての具体的な将来像を描きにくい状況が見られた。
企業側では、若年層人材の確保や定着を大きな課題として捉えており、業界の魅力や社会的意義が学生に十分伝わっていないことへの危機感が共有されている。また、即戦力確保よりも、教育機関と連携しながら中長期的に人材を育成する必要性が強く認識されている。
以上より、本事業を通じて得られた知見は、学校教育と産業界を接続する役割の重要性を改めて示すものであり、今後は、体験型学習やキャリア教育の充実、業界理解を深める継続的な取り組みが求められる。

第 4 項 教育コンテンツの開発と実証講座の実施

○ 開発した教育コンテンツの概要

「コミュニケーションと情報デザイン講座」の開発と実証講座

「情報科目における入門プログラム（コミュニケーション＆デザイン編）」講座のテキスト教材を制作し、通信制高校 2 校において実証講座を実施した。
実証講座 「コミュニケーションと情報デザイン」
「AI 講座」「実践 ChatGPT 講座」を各 50 分×4 コマ
実証講座の対象者：松蔭高等学校みなとみらい学習センター
ヒューマンキャンパス高校大宮学習センター
本プログラムは、情報社会において必要不可欠となっている情報活用力、コミュニケーション力、デザイン的思考を基礎から学ぶことを目的として構成した。特に、AI 技術を含む最新の情報環境を踏まえ、生徒が主体的に情報と向き合い、適切に活用できる力の育成を重視した。

「通信エンジニアリング入門レベルチェックリスト」作成と実施」

本教育カリキュラム・プログラムでは、専門学校 2 年生を対象に、通信エンジニアリング分野における基礎的な知識理解、実務に直結する技能、課題解決の考え方の習得を目的としている。受講者評価については、「満足した」「理解しやすかった」といった主観的印象ではなく、受講後に実際に何が理解できて、何が理解できていないかを明白にする事に着目し、テスト作成、専門学校にて実施した。

テスト内容】・IT インフラ・ネットワーク 編
・通信建設・安全施工 編
・物理層・電気基礎 編

「キャリア教育科目（IT 分野）」の制作と実証

キャリア教育科目における職業体験部分の授業として教材を制作し、実証講座を
実施する。実際に企業による企業紹介動画を使用し Web での講義を行った。通信制高

校の特性を生かし、全国の学習センターに同時に講義を行う事ができる。
［参加企業］ 常盤電業株式会社、株式会社ヒューマンパワー、
中央情報専門学校
［実施校］ヒューマンキャンパス大宮学習センターにて Web 講義実施。
ヒューマンキャンパス全国の学習センターをネットでの視聴を行った。

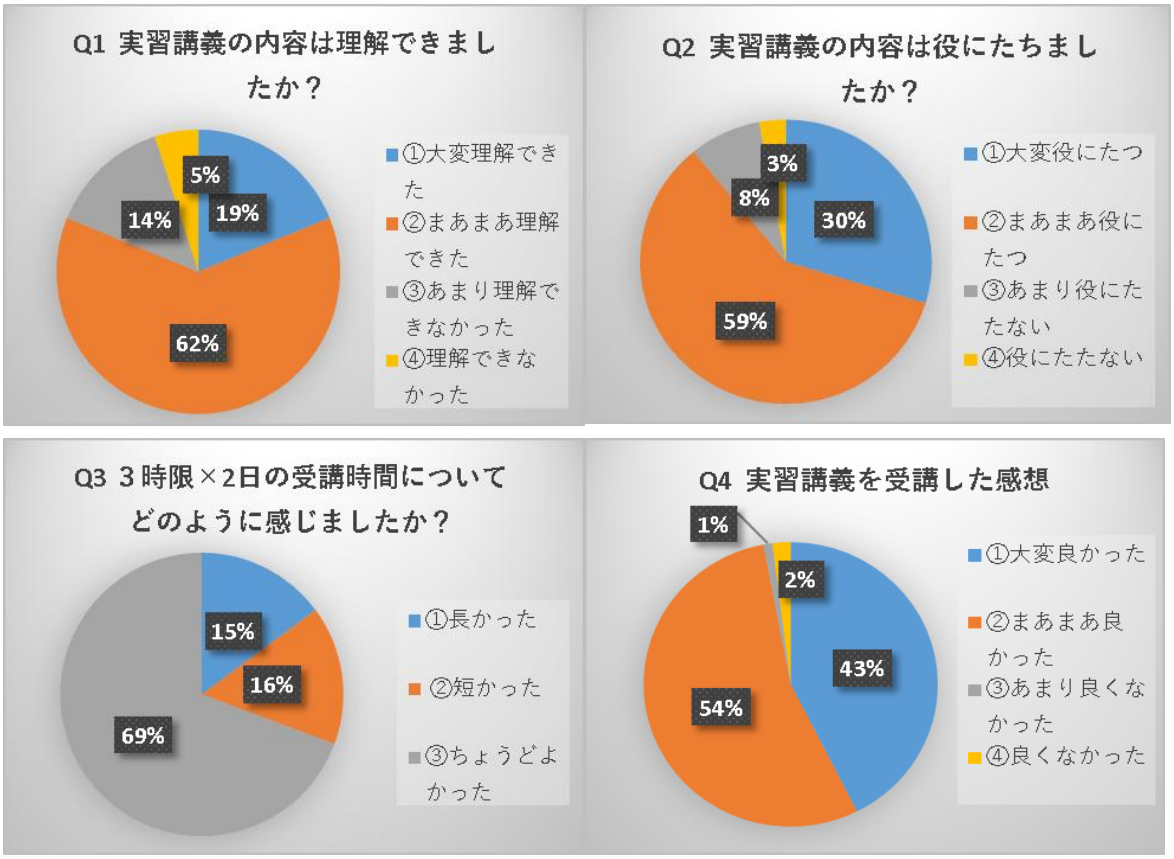
「ネットワーク構築・運用講座Ⅲ」
CCNA/CCENT 講座の改修をもとに三郷工業技術高校、川口工業高校、大宮工業高校
で体験授業を50分×6コマ実施する。併せて「ネットワーク通信」に対する学習意欲を高めることを目的として、ネットワークセキュリティタイムトライアルを実施する。
現場で実務に携わっている企業から講師を招き現場のリアル講義により、高校段階で実務を意識したネットワーク教育を実施できた。
高校段階で実務を意識したネットワーク教育を体験する。
［実施校］三郷工業技術高校 、川口工業高校、大宮工業高校
50分×3 コマ×2 日開催された。

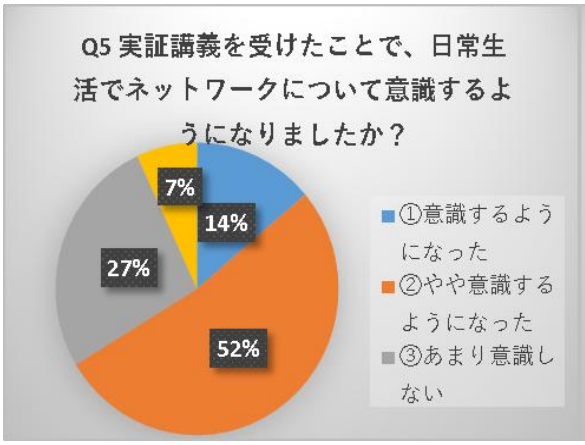
「IT パスポート＜基礎編＞ e ラーニング教材の作成と実証」
本事業では、「IT パスポート＜基礎編＞」のうちマネジメント系・ストラテジ系分野を対象に、キャリア教育科目における職業体験的要素を取り入れた e ラーニング教材を作成した。教材は IT 関連企業による実務事例をもとに、高校生にも理解しやすい内容に再構成し、生徒の興味・関心を喚起することを目的とした。DVD 化して各校へ配布し、事業終了後も各学校で授業として継続的に活用できる形とした。

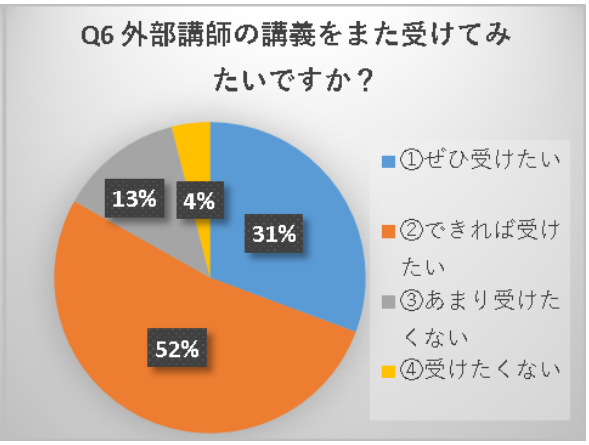
○ 開発した教育コンテンツの実証講座の実施

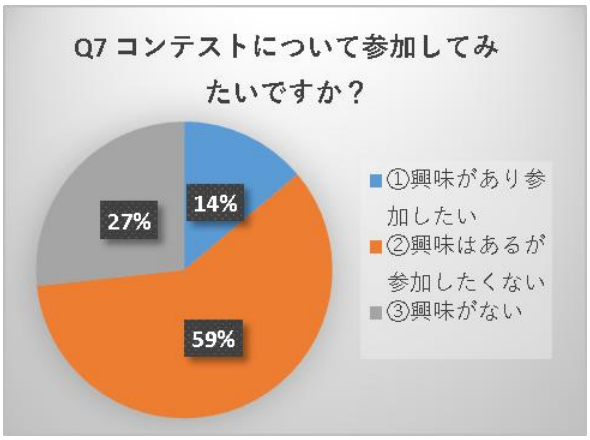
1. ネットワーク構築、運用講座Ⅲ を工業高校3校にて実証講座を開催

実証講座の対象者	三郷工業技術高校 情報電子科 3 年	川口工業高校 情報通信 2 年	大宮工業高校 電気科 3 年
期間 （日数･コマ数）	1G 9/19、10/7 2G 11/21、11/25	11/4 11/11	11/13 11/20
	50 分×3 コマ×2 日		
実施手法	1 日目 2 台の PC を接続したい 3 台の PC を接続したい スイッチの設定の仕方、確認の仕方を知りたい 異なるネットワークにある機器を接続したい 2 日目 アクセス制限したい VLAN を使いたい トライアル		
実証結果	［受講者アンケート（n＝101 ）3 校まとめ		

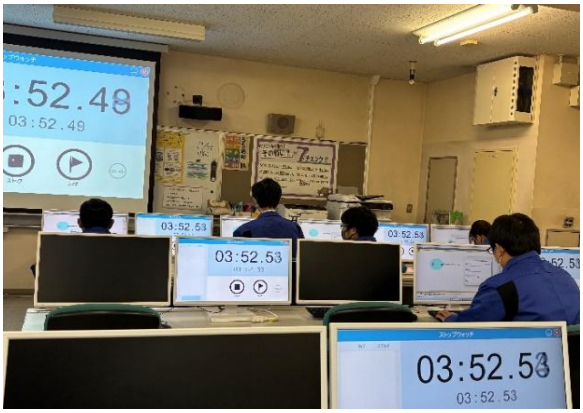


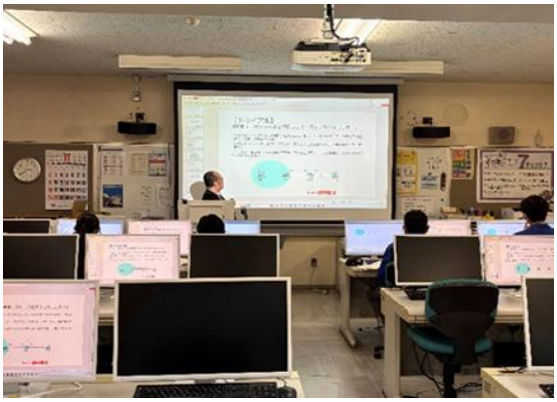






[三郷工業技術高等学校　実証講義風景]





[川口工業高等学校実証講義風景]





【大宮工業高等学校　実証講義　風景】





【実証講座の感想について】 抜粋

◇スライドと冊子があったから、分かりやすく、すらすらやることができた。
思っていたより、プログラミングみたいな要素が多くて楽しかった。

◇ネットワークについて学べる機会は少ない中でとても有意義な実習を行う事ができました。

◇トライアルなんかは、セキュリティホール　を見つける作業で、周りと競い合って集中してできるのはもちろんのことですが作業中ずっと「楽しい」 と感じていました。

◇一つ一つわかりやすい説明で理解しやすかった。自分の中で何が理解できていて何が理解できていないのか
というのがわかったので進みやすかったです。

◇今回の講義でネットワークに対する興味、関心が湧きました。自分にとって貴重な体験になりました。

◇初めて触れるものだったので理解するのに時間がかかってしまいましたが、少しずつ理解していけたので達成感がありました。

【実施高校教師からの評価】

所感：普段はハードウェア面での実習が多く、シミュレータを使用した実践的な学習について生徒は非常に興味を持って取り組んでいたように見受けられる。しかし、生徒によって、情報技術全般に対する既有知識の差があり、講義スタートの段階での取り組み方に差があるように感じた。

成果：座学や実習で学んでいるネットワークについての知識が具体的にどのように運用されているかに触れ、視野を広げることについて一定の効果があったと感じている。また、今まではあまりネットワークに興味を持てなかった生徒についても、ソフトウェア面での技術を入り口として興味関心を高めることに期待できる。

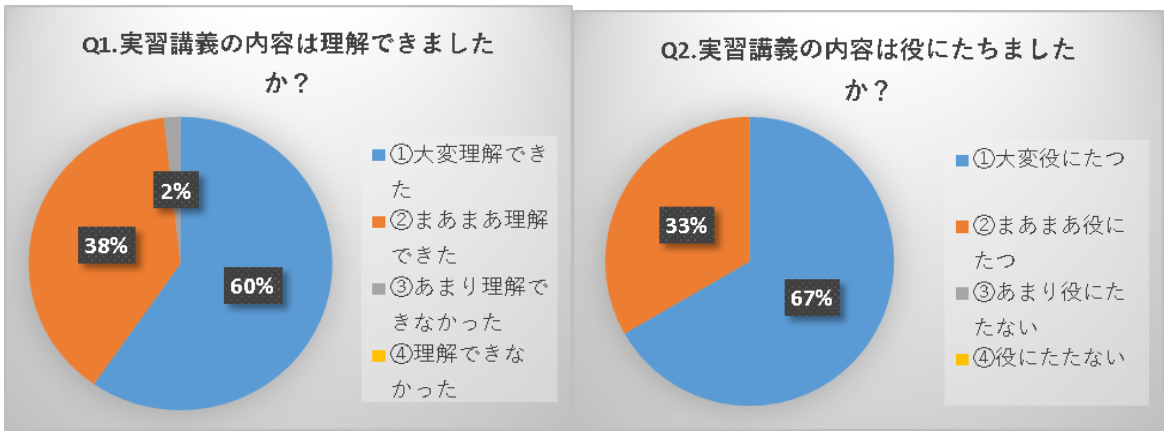
課題：前述の通り、生徒の既有知識の差を埋めるためにも事前指導の必要性を感じた。また、今後に他校でも取り組みを広げていくためには作業環境や時間の確保、実施時期の検討などは必要であると考える。

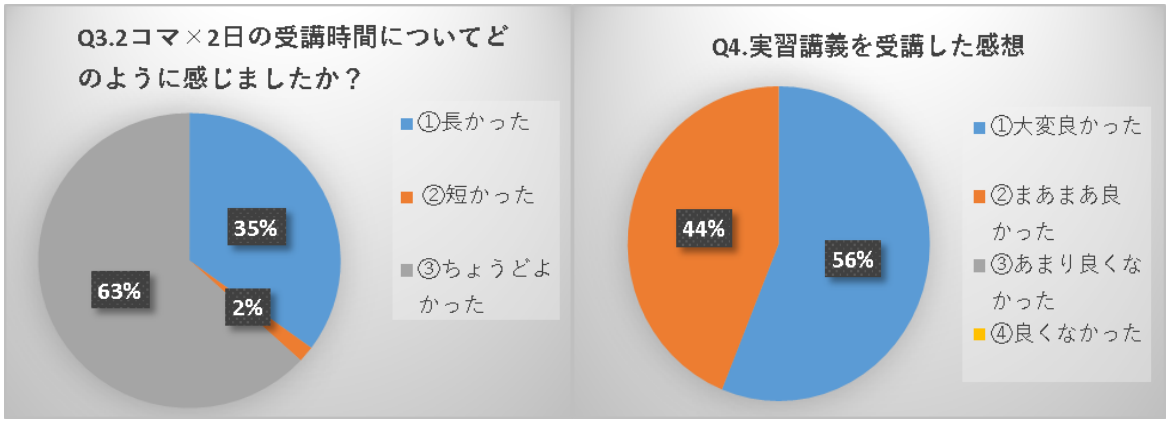
受 講 者 数	19 名	63 名	21 名

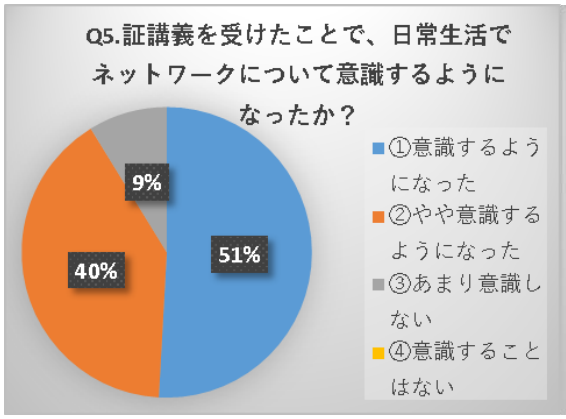
〇開発に際して実施した実証講座の概要　※検証結果については、下記検証項目に記載

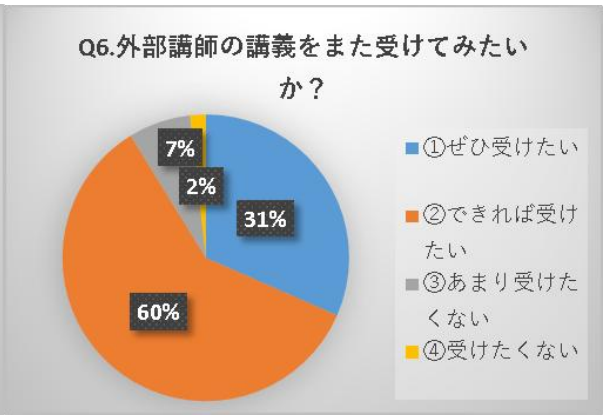
2. コミュニケーションと情報デザイン講座の開発と実証。通信制高等学校2校で開催

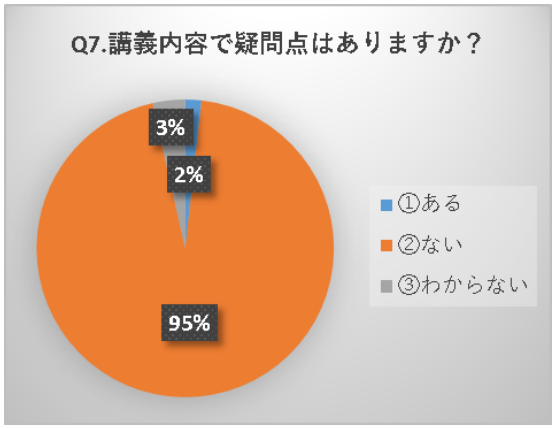
実証講座の対象者	松陰高等学校 みなとみらい学習センター 2年生	ヒューマンキャンパス高等学校 大宮学習センター 2年生
期間（日数・コマ数）	10/17（金）　2コマ 11/14（金）　2コマ	1/16（金）　2コマ 1/30（金）　2コマ
実施手法	1日目　AIの基礎 ・AIとは？ ・機械学習とは？ ・Code.orgで機械学習を体験 ・AIの未来と社会問題	2日目　実践 ChatGPT 講座 ・生成AIとは？ ・ChatGPTアカウント登録 ・ChatGPTの基本機能と操作 ・ChatGPTの活用法 ・プロンプトの重要性
実証結果	**［受講者アンケート（n＝57　）2校まとめ**	











松陰高等学校みなとみらい学習センター　実証講義　風景





ヒューマンキャンパス高等学校大宮学習センター　実証講義　風景





【実証講座の感想について】 アンケート自由記入より抜粋

◇タブレットで AI の特徴を実際にやってみて知ることができた。親近感がわきました。今までは AI を使っているだけでしたが、これからは使いこなすことができると思います。勉強の質が上がると考えたら嬉しいです。ありがとうございました。

◇ChatGPT を普段から使用しているが、知らない動作や使い方を知れて良かった。

◇ただ話を聞くだけでなく、ゲームやチャッピーを活用して楽しく授業を受けられるように工夫されていてありがたかったです。

◇とてもわかりやすくて勉強になりました。

◇いつもチャット GPT 使っているけど知らなかった機能を知れたから良かったです。

◇AI は身近な生活において非常に親しい存在であるが実際あまりよくわからない状態でした。しかし、講義を受け、AI の活用法やできる事、できない事を学ぶことができたので、この講義をきっかけにもっと知りたいなと思いました。

◇生成 AI を使った ChatGPT は誤った情報ものせてくると聞き、今後 ChatGPT を使うときには、意識しようと思います。

◇私は AI を使い始めたのが最近だったので、AI に関する知識がありませんでした。今回の授業のおかげで、AI の仕組みや AI を上手く活用する方法について知る事ができました。こうした正しい情報を知る機会はすごく助かりました。

【実施教師からの評価】

「タブレットで実際にやってみて親近感がわいた」というアンケートの記述の通り 、実践を通じて、AI 技術を自分事として捉えるための足掛かりとなった講義でした。AI を単なる万能ツールではなく、使い手やソース次第であるという限界（ハルシネーション等）とセットで学んだことは 、今後の情報社会を生きていく上での重要なリテラシーの種まきだったと感じました。

【成果】

単に ChatGPT の操作方法を覚えるだけでなく、AI の仕組みやハルシネーション（嘘）といった「技術の裏側」を学んだことで 、生徒たちは「AI は万能ではなく使い手次第である」という本質を捉え始めたようです。また、講義後には 9 割を超える生徒が「日常生活でネットワークを意識するようになった」と回答しており 、身近な生成 AI を通じて、ネットワークへと関心の範囲が広がったと感じています。

受 講 者 数	15名	42 名

○ その他の開発した教育コンテンツの検証

「通信エンジニアリング入門レベルチェックリスト」作成と実施」

本教育カリキュラム・プログラムでは、専門学校 2 年生を対象に、通信エンジニアリング分野における基礎的な知識理解、実務に直結する技能、課題解決の考え方の習得を目的としている。受講者評価については、「満足した」「理解しやすかった」といった主観的印象ではなく、受講後に実際に何が理解できて、何が理解できていないかを明白にする事に着目し、テスト作成、専門学校にて実施した。

テスト内容】・IT インフラ・ネットワーク 編
・通信建設・安全施工 編
・物理層・電気基礎 編

評価結果の教育カリキュラム・プログラムへの反映方法

・得られた受講者評価および第三者評価については、以下の形で教育カリキュラムへ反映、または反映予定としている。

・反映内容の例理解度が低かった分野について、講義時間および演習比重を増これらの改善を通じて、単なる知識習得にとどまらず、現場で活用できる基礎力の定着を図る。

「IT パスポート＜基礎編＞ e ラーニング教材の作成と実証」

本事業では、「IT パスポート＜基礎編＞」のうちマネジメント系・ストラテジ系分野を対象に、キャリア教育科目における職業体験的要素を取り入れた e ラーニング教材を作成した。教材は IT 関連企業による実務事例をもとに、高校生にも理解しやすい内容に再構成し、生徒の興味・関心を喚起することを目的とした。

作成した教材を、三郷工業技術高校、川口工業高校、大宮工業高校に DVD にて送付し 2 年次生徒を対象に実証講座を実施する事とした。IT 関連職業への理解促進や学習意欲が期待された。より分かりやすい動画構成や、教師向け指導資料の充実を図った。最終的に、自走に向け教師用および生徒用教材を作成し DVD 化して各校へ配布し、事業終了後も各学校で授業として継続的に活用できる形としたい。

第 5 項 業界紹介イベントの開催

3. 電気通信工事業界の仕事体験と実態調査を目的としたイベント

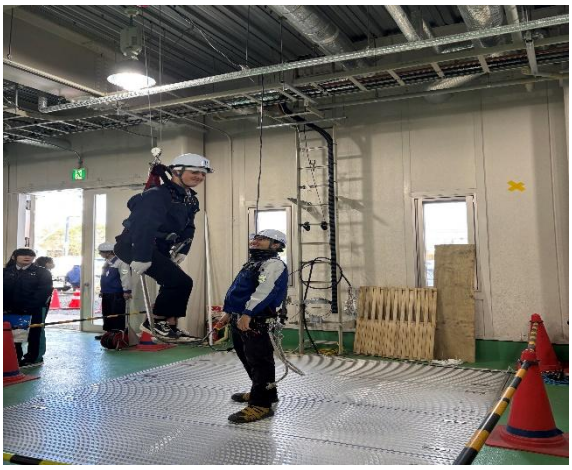
参加者	大宮工業高校 中央情報専門学校 川口工業高校班分け 三郷工業技術高校 高校生　121 名　　専門学校生　10 名　　計 131 名
期　　間	R7 年 12 月 16 日 （火） 午前の部 9:30～12:30 午後の部 13:30～16:30
場　　所	ミライト・ワン　市川研修センター
協力企業	株式会社ミライト・モバイル・イースト 東電通ネットワーク株式会社 ／ 株式会社町田電話工業 株式会社井上通信 ／ 株式会社ミライトワン・ネクスト 常盤電業株式会社 ／ 中央情報専門学校
イベント内容	・光ファイバ融着接続作業体験 ・バケット車の体験 ・宙乗り器 ・フルハーネス体験 ・鉄塔昇降体験 ・VR 動画上映 ミライトさん版 ・VR 動画上映 兼 滞留場所 ・企業説明（8ブース設定） ・作業用品展示
イベント告知ページ	

【光ファイバ融着接続作業体験】





【フルハーネス宙乗り器】

【ワイヤー移動体験】




【作業用品展示】





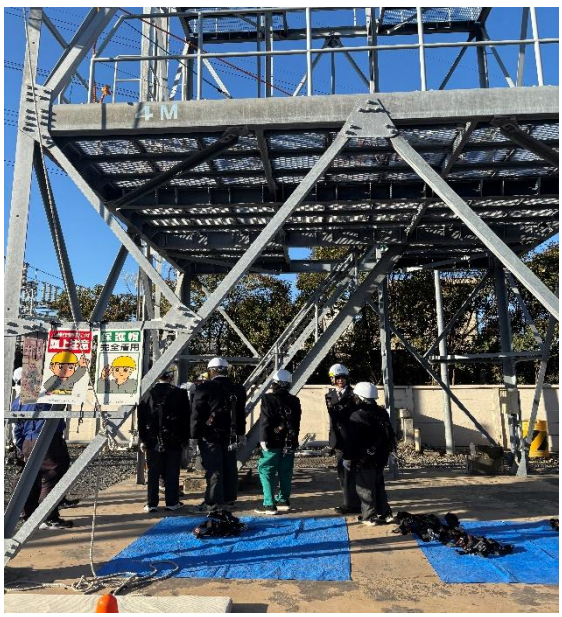
【企業説明】





【鉄塔昇降体験】



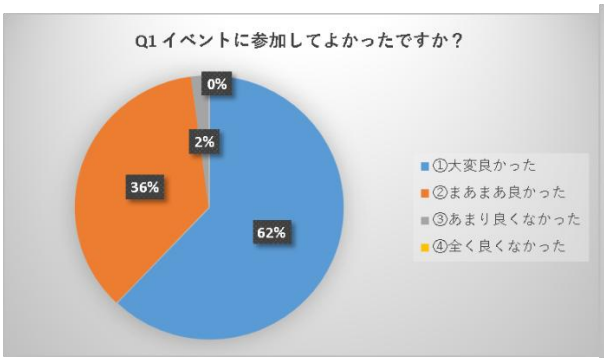


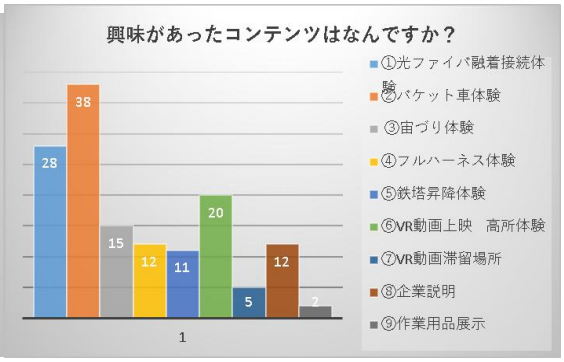
【VR 高所作業動画上映体験】

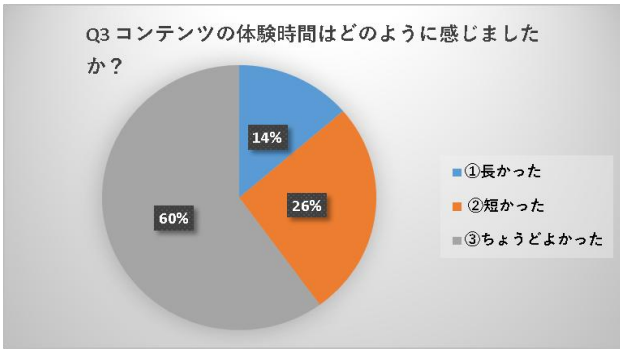


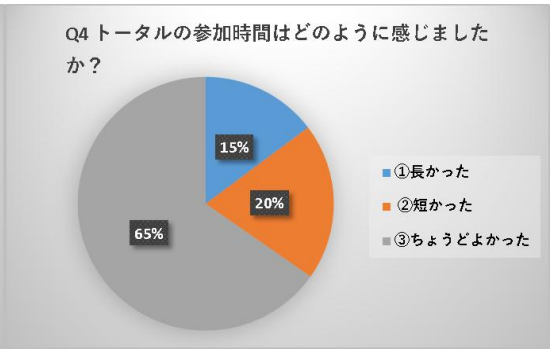


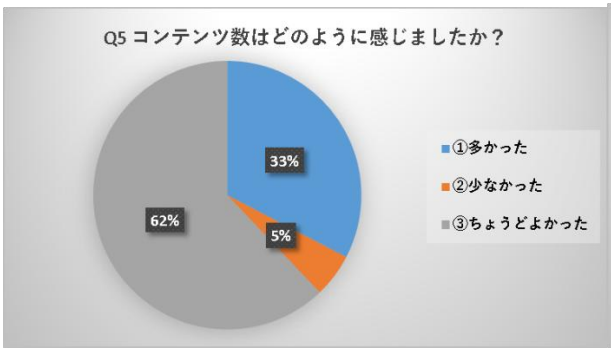
実証成果　　受講者からのアンケート（n＝95 名）

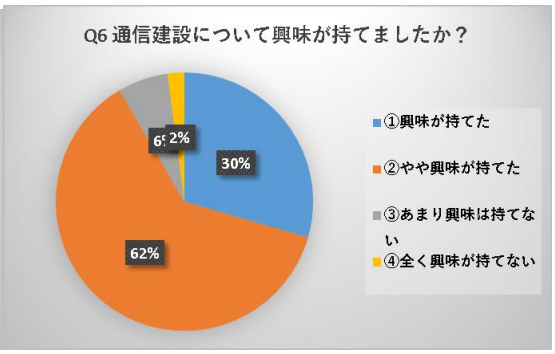


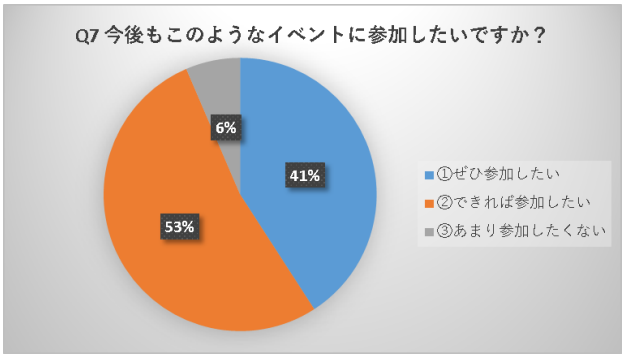












【インターンシップイベントの感想　】　（抜粋）

◇自分は今回初めてやったことがあり、とてもいい体験でした。またこのようなイベントに参加したいです。

◇今回のインターンシップでバケット車体験や、宙乗り器体験など普段体験できないことをやらせてもらい、とても勉強になりました。また、進路の選択が広がりました。

◇今回のインターンシップで自分の将来の道が広がりました。通信の分野は光ファイバ融着接続以外にもいろいろな仕事内容があるのだなと企業説明で感じました。

◇・高所作業車のバケット車に乗る、ハーネスをつけてつるされるなどイベントに参加して面白い体験ができたことは大変いい経験になった。企業説明会では当学校の学生たちが何名も卒業後に通信インフラ業界に就職していることを知り死亡業界に関して自分の視野が広がったと思う。

◇今回のインターンシップイベントに参加して、通信建設の仕事について具体的に知ることができ、とても勉強になりました。説明もわかりやすく、貴重な経験になりました。ありがとうございました。

◇貴重な体験ができて、知識的にも今後学ぶことへの予習となった気がします。光ファイバ融着接続作業体験では、細かく迅速な手さばきがどれほど大切かわかりました。

◇インターンシップイベントを受け、普段はできない体験をしたが、日頃見ているものの中にいろいろな考え、工夫で仕事が成り立っていることがわかり、仕事が理解しやすいよう VR なお、様々な向きから効率を上げていることなど楽しく学ぶことができました。

◇理解しやすい展示が多くてよかった。いろいろな企業の説明が聞けて良かった。

【同行教師　感想】本イベントは、電気通信工事業界に関わる企業から直接説明を受けることができるとともに、仕事内容の一部を実体験できる点において、非常に貴重な機会であると捉えている。実際に、参加生徒へのアンケート結果においても「参加して良かった」「業界に興味を持つことができた」といった肯定的な回答が多く見られ、本イベントで得た経験が、今後の進路選択において有益に活用されることが期待される。

【成果】電気通信工事業界に携わる企業が数多く存在すること、また仕事内容を具体的に知ることができた点は、大きな成果であったと考える。企業と対面形式で話をする機会を得たことで進路選択の幅が広がり、仕事内容への理解を深めることで、入社後のミスマッチを防ぐことにもつながったのではないかと考える。

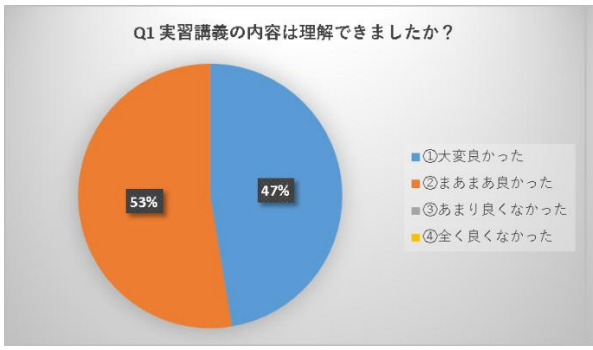
4. 全国展開 におけるインターンシップイベント

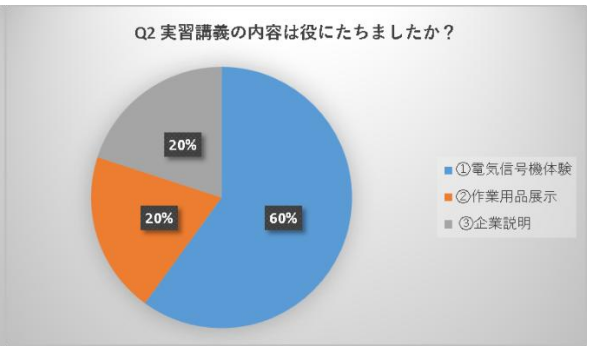
参加者	ヒューマンキャンパス　大宮学習センター　　19 名 全国学習センターDVD にて共有
期間	R7 年 12 月 18 日 （金） 14:00～16:00
場所	ヒューマンキャンパス　大宮学習センター
協力企業	常盤電業株式会社
イベント内容	信号機とは 制御器の操作体験 高度化 PICS 体験 無線灯器の動作体験 作業用品紹介

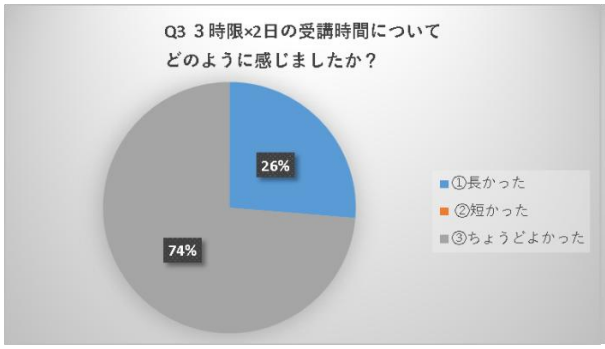


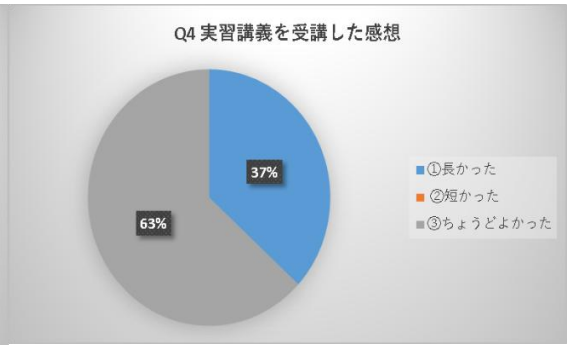


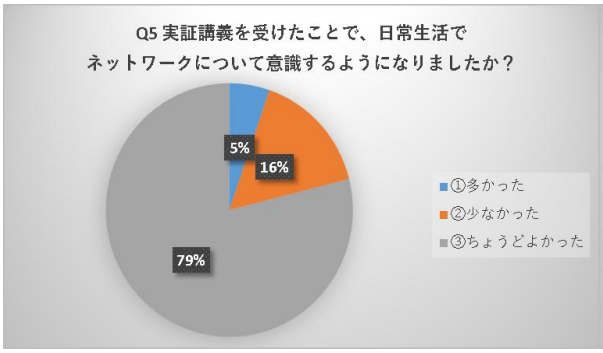
実証結果　　アンケート結果（n＝19 名）

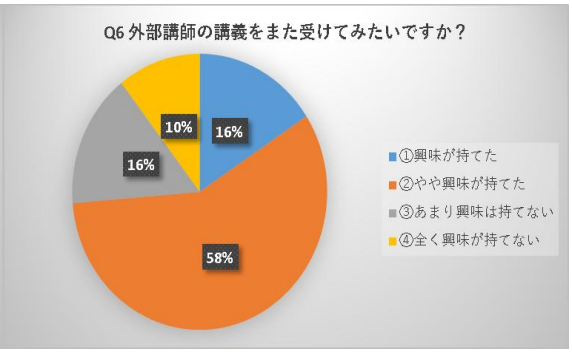


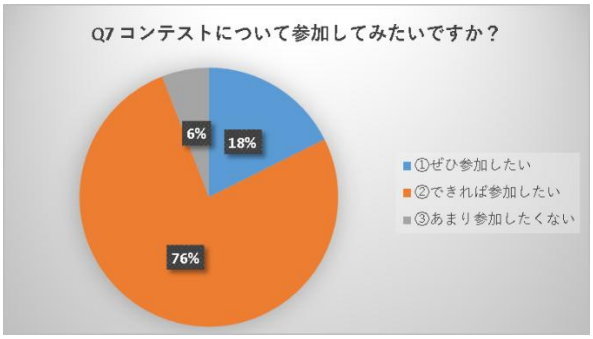












【インターシップの感想】（抜粋）

◇仕事内容や信号について話を聞けたのは良かったけどどうやったらその会社で働けるか(大学や専門学校)の話も聞きたかった

◇今回このような回を開いてくださりありがとうございました。信号機の仕組みについて体験させていただいたことで、より信号機に対する理解が深まりました。

◇普段知れないようなことを知れてとても楽しかった。興味をひかれたのでもっといろいろなコンテンツを体験したくなった。

【教師　感想】毎日見ているはずの信号機ですが、実物を目の前にした生徒たちの反応が予想以上に良く、驚きました。常盤電業さんのお話は、単なる仕事の紹介だけでなく「目の不自由な方や高齢者の安全をどう守るか」という福祉の視点が含まれており、生徒たちが「社会を支える仕事の意義」を真剣に考える様子が印象的でした。

【成果】本物の信号機を間近で見せてもらったことで、教科書上の知識ではなく、実感を伴う学びができたことが一番の収穫です。また、普段何気なく見ている信号機が、実は「お年寄りや体の不自由な方が安全に渡れるように」といった優しさや配慮で作られていることを知り、生徒たちの職業観や社会に対する視点が深まったと感じています。

4. 埼玉県産業教育フェア視察

参加者	川口工業高等学校
期間	R7 年 11 月 15 日 （土） 14:00～16:00
場所	イオン浦和美園店　セントラルコート
協力企業	ミライト・ワン株式会社
イベント内容	VR 鉄塔のぼりを体験してみよう

埼玉県教育委員会による埼玉県産業教育フェアにて川口工業高等学校の展示にミライト・ワン株式会社提供の VR 鉄塔体験実施。
対象は、小中学生。将来の選択肢として、工業高校から通信建設業界を加えてくれることを期待したい。







第3節 事業実施に伴うアウトプット（成果物）

第１項　年度別（令和 3～8 年度）アウトプット一覧

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
実態調査報告書	●企業へのアンケートによる調査 ●学生を対象とした職業紹介イベントによる意識調査	●企業へのヒアリング調査 ●教育機関を対象としたヒアリング	●企業へのヒアリング調査 ●教育機関を対象としたヒアリング
教材開発（講義・演習）		●高校１年次（入門ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ） ●専門学校１年次（ｅﾗｰﾆﾝｸﾞ） ●工業高校３年次（NW 科目）	●高校２年次 ●専門学校１年次 ●工業高校３年次（NW 科目）
実証講座		●実証講座Ｒ４年度実施報告	●実証講座Ｒ５年度実施報告（NW 科目）
職業紹介イベント	●職業紹介イベント実施報告	●職業紹介イベント実施報告	●職業紹介イベント実施報告
事業報告・広報	●事業報告書 ●事業 PR 動画	●事業報告書 ●事業 PR 動画	●事業報告書 ●事業 PR 動画

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
実態調査報告書	●企業へのヒアリング調査 ●教育機関を対象としたヒアリング	●企業へのヒアリング調査 ●教育機関を対象としたヒアリング	
教材開発（講義・演習）	●高校３年次科目（前半） ●専門学校２年次科目（前半）	●高校３年次科目（後半） ●専門学校２年次科目（後半）	●高ー専連携プログラム教材最終版
実証講座	●実証講座Ｒ６年度実施報告	●実証講座Ｒ７年度実施報告	●実証講座Ｒ８年度実施報告
職業紹介イベント	●職業紹介イベント実施報告	●職業紹介イベント実施報告	●職業紹介イベント実施報告
事業報告・広報	●事業報告書 ●事業 PR 動画	●事業報告書 ●事業 PR 動画	●事業報告書 ●事業 PR 動画

第 2 項 令和 7 年度アウトプット＜教材開発/実証講座＞

●開発教材 「コミュニケーションと情報デザイン」
教材:テキスト教材（PPT スライド）10 枚×4 回、課題（4 回分）
学習想定時間:**@50 分×4コマ**
対象:：通信制高校の生徒
●実証講座 「コミュニケーションと情報デザイン」
実施期間:2025 年 11 月（2 コマ）／2026 年 1 月（2 コマ）
実証講座の対象者:松蔭高等学校みなとみらい学習センター 15 名
ヒューマンキャンパス高校大宮学習センター **31 名**
受講者数:**延べ 50 人**
〇開発教材 「通信エンジニアリング入門レベルチェックテスト」制作と実施
教材:レベルチェックテスト問題および正解答編（Office 形式）
100 問（解答は択一式）
対象:ヒューマンキャンパス高校（全国）／中央情報専門学校
●開発教材 「キャリア教育科目（IT 分野)」の制作と実証
教材:テキスト教材（PPT スライド）10 枚×4 コマ分
課題（Office 形式） ×4 回分
対象:**専門学校 2 年生**
受講者数:**60 名**
●実証講座 「キャリア教育科目（IT 分野)」
実証予定時期：2025 年 11 月（2 コマ）／2026 年 1 月（2 コマ）
WEB による業界企業によるライブ配信授業&対面実施
学習想定時間：@50 分×4 コマ
対象:ヒューマンキャンパス高校（全国）延べ 140 名／中央情報専門学校
〇開発教材 「ネットワーク構築・運用講座Ⅲ」
教材：授業用レジュメ@10 頁×6 コマ（PPT または PDF ﾃﾞｰﾀ)
対象:三郷工業技術工業高校、川口工業高校、大宮工業高校
〇実証講座 「ネットワーク構築・運用講座Ⅲ」
実施期間：R7 年 11 月 18 日（3 コマ）／R8 年 1 月 13 日（3 コマ）予定
学習想定時間:：@50 分×6 コマ
対象:三郷工業技術工業高校 9 名、川口工業高校 63 名、大宮工業高校 21 名
●開発教材 IT パスポート＜基礎編＞e ラーニング教材
教材： e ラーニングコンテンツが確認できる学習サイト URL を案内
各学校の授業で活用
実証予定時期：2025 年 10 月～2026 年 1 月
学習想定時間:@50 分×10 コマ
対象:三郷工業技術工業高校、川口工業高校、大宮工業高校
受講者数:**延べ 90 人**

第 3 項　事業実施によって達成する成果及び測定指標

KPI（成果測定指標）		単位	事　業 開始前	前年度	今年度	最終 年度
業界企業への就職人数	目標値	人		15	20.	50
	実績値	人		27	20	ー
	達成度	%		180	100	ー

（上記 KPI の測定手法）
高校・専門学校・業界への聞き取り調査

KPI（成果測定指標）		単位	事　業 開始前	前年度	今年度	最終 年度
意識調査アンケート回答高校数	目標値	校		45	48	50
	実績値	校		39	42	ー
	達成度	%		80	88	ー

（上記 KPI の測定手法）
QR コードを利用した WEB アンケートの集計による

KPI（成果測定指標）		単位	事　業 開始前	前年度	今年度	最終 年度
意識調査アンケート回答高校生数	目標値	人	0	2200	2300	2500
	実績値	人	0	1475	1889	ー
	達成度	%		67	82	ー

（上記 KPI の測定手法）
QR コードを利用した WEB アンケートの集計による

KPI（成果測定指標）		単位	事　業 開始前	前年度	今年度	最終 年度
イベント参加学生数	目標値	人	0	150	150	200
	実績値	人	0	176	167	ー
	達成度	%		117	111	ー

（上記 KPI の測定手法）
会場参加人数を当日集計。

KPI（成果測定指標）		単位	事　業 開始前	前年度	今年度	最終 年度
実証授業体験人数	目標値	人	0	300	300	300
	実績値	人	0	91	235	ー
	達成度	%		30	78	ー

（上記 KPI の測定手法）
学校にて参加人数をカウント。

KPI(成果測定指標)		単位	事 業 開始前	前年度	今年度	最終 年度
Ⅱ 情報科目における 入門プログラム ネットワーク編）アンケート評価 満足度 5段階評価で4以上	目標値	%		95	**95**	95
	実績値	%		100	**100**	ー
	達成度	%		105	**105**	ー

（上記 KPI の測定手法）
実証講座参加者アンケートの実施

KPI(成果測定指標)		単位	事 業 開始前	前年度	今年度	最終 年度
CCNA/CCENT 試験対策を目的としたネットワーク授業　アンケート評価 満足度 5段階評価で4以上	目標値	%		95	**95**	95
	実績値	%		100	**97**	ー
	達成度	%		105	**102**	ー

（上記 KPI の測定手法）
実証講座参加者アンケートの実施

KPI(成果測定指標)		単位	事 業 開始前	前年度	今年度	最終 年度
高校生意識調査アンケート回答において、通信インフラの仕事への理解度・興味　5段階で 4 以上	目標値	%		90	**90**	95
	実績値	%		48	**46**	ー
	達成度	%		53	**51**	ー

（上記 KPI の測定手法）
QR コードを利用した WEB アンケートの集計による

KPI(成果測定指標)		単位	事 業 開始前	前年度	今年度	最終 年度
意識調査アンケート回答専門学校数	目標値	校		30	**30**	30
	実績値	校		11	**15**	ー
	達成度	%		30	**50**	ー

（上記 KPI の測定手法）
QR コードを利用した WEB アンケートの集計による

KPI(成果測定指標)		単位	事 業 開始前	前年度	今年度	最終 年度
意識調査アンケート回答専門学校生数	目標値	人		600	**600**	600
	実績値	人		188	**303**	ー
	達成度	%		30	**51**	ー

（上記 KPI の測定手法）
QR コードを利用した WEB アンケートの集計による

第3章 最終年度までの具体的な取組

第 1 節 計画の全体像

◆【令和3年度（初年度　ただし2か月間のみ）】
事業推進体制の整備と活動推進
実施委員会および部会の組織化と開催
実態調査の実施
実態調査⑴の企画・設計・実施・分析
実態調査⑵の企画・設計・実施・分析
ジョブフェア（体験学習会）の開催
教育プログラムの開発
カリキュラム・シラバス R3 年度版の策定
事業成果のとりまとめ
事業成果報告書の作成、事業成果の公開

◆【令和4年度（2年目）】
事業推進体制の整備と活動推進
実施委員会および部会の開催
専門家・有識者へのヒアリング
教育プログラムの開発
カリキュラム・シラバス R4 年度版の策定
指導ガイドライン R4 年度版の策定
eラーニング教材（通信建設エンジニアリング入門講座）
　・開発
　・電気通信工事人材養成事業の HP での公開
実証講義用教材/演習用教材
　・情報科目における入門プログラム （ゲーム編）開発、実証講義実施
　・CCNA/CCENT 試験対策を目的としたネットワーク 授業用教材開発
業界体験型イベント（体験学習会）の開催
事業成果のとりまとめ
事業成果報告書の作成、事業成果の公開

◆【令和5年度 （3年目）】
事業推進体制の整備と活動推進
実施委員会および部会の開催
専門家・有識者へのヒアリング
教育プログラムの開発
カリキュラム・シラバス R5 年度版の策定
指導ガイドライン R5 年度版の策定

eラーニング教材（通信建設エンジニアリング入門講座）改定改良
実証講義用教材/演習用教材
・情報科目における 入門プログラム （ゲーム編）
改定改良、講師用教材の開発、実証講義実施校の拡大
・CCNA/CCENT 試験対策を目的と したネットワーク 授業用教材
改定改良、実証講義実施
業界体験型イベント（体験学習会）の開催
・オンラインコンテンツの充実
事業成果のとりまとめ
事業成果報告書の作成、事業成果の公開

◆【令和6年度 （4年目）】
事業推進体制の整備と活動推進
実施委員会および部会の開催
専門家・有識者へのヒアリング
本事業全国水平展開として「福岡モデル」の構築、運用
教育プログラムの開発
カリキュラム・シラバス R6 年度版の策定
指導ガイドライン R6 年度版の策定
eラーニング教材（通信建設エンジニアリング入門講座）改良
実証講義用教材/演習用教材
・専門学校留学生向け 通信建設エンジニアリング入門講座（実技編）開発
実証講座実験
・情報科目における 入門プログラム （コミュニケーションと情報デザイン編）
生徒用、講師用それぞれの開発、実証授業の実施、
実証講義実施校の拡大（福岡県での水平展開）
・CCNA/CCENT 試験対策を目的と したネットワーク 授業用教材
改定改良、講師用教材の開発、実証講義実施校の拡大
実証講義実施校水平展開（福岡県での水平展開）
高等学校におけるキャリア教育の推進
新規教材の開発検討
業界体験型イベント（体験学習会）の開催
内容見直し、・オンラインコンテンツの充実、福岡モデルでの展開
事業成果のとりまとめ
事業成果報告書の作成、事業成果の公開

◆【令和7年度 （5年目）】
事業推進体制の整備と活動推進
実施委員会および部会の開催

専門家・有識者へのヒアリング
教育プログラムの開発
カリキュラム・シラバス R7 年度版の策定
指導ガイドライン R7 年度版の策定
eラーニング教材（通信建設エンジニアリング入門講座）改良
実証講義用教材/演習用教材
情報科目における 入門プログラム （IT による問題解決編）
　生徒用、講師用それぞれの改定改良、
実証講義実施校の拡大
・CCNA/CCENT 試験対策を目的としたネットワーク授業用教材
　生徒用、講師用それぞれの改定改良
実証講義実施校の拡大
新規教材の開発検討
第 37 回埼玉県産業教育フェアへの参画
通建求人情報検索システムの開発
業界体験型イベント（体験学習会）の開催
　内容見直し、・オンラインコンテンツの充実
事業成果のとりまとめ
事業成果報告書の作成、事業成果の公開

◆【令和8年度 （6年目）】
事業推進体制の整備と活動推進
実施委員会および部会の開催
専門家・有識者へのヒアリング
教育プログラムの開発
カリキュラム・シラバス最終版の策定
指導ガイドライン最終版の策定
eラーニング教材（通信建設エンジニアリング入門講座）最終版
実証講義用教材/演習用教材（最終版）
・情報科目における 入門プログラム （ゲーム編）
生徒用、講師用それぞれの改定改良、
実証講義実施校の拡大
・CCNA/CCENT 試験対策を目的と したネットワーク 授業用教材
　生徒用、講師用それぞれの改定改良
実証講義実施校の拡大
業界体験型イベント（体験学習会）の開催
　内容見直し、・オンラインコンテンツの充実
第 38 回埼玉県産業教育フェアへの参画
事業成果のとりまとめ
事業成果報告書の作成、事業成果の公開

第2節 本事業終了後の成果の活用方針・手法

本事業の要は、高校→専門学校→電気通信工事業界の一気通貫型の人材プラットフォームの構築と運営にある。
産学連携コンソーシアムにより企画する職業紹介・体験イベント（ジョブフェア）は WEB サイト配信も行い、全国対応型として毎年開催する。さらに、コーディネーターと協力企業が中心となり、企業が求める習熟レベルに合わせた資格化を検討する。教育プログラムの告知や普及、学習内容のブラッシュアップを資格運営として実施していく予定である。

令和9年度は、コーディネーター、協力企業との協同による認定団体を設立し、以下の業務を行う。

- ●試験問題の作成→CBT 試験化
- ●合格者の資格認定
- ●登録者の管理
- ●資格および教育プログラムの企業、教育機関への告知・宣伝
- ●ジョブフェアの企画運用

令和 10 年度、11 年度以降は、資格事業として普及活動を実施して行く。
ジョブフェアは毎年開催とし、職業紹介と人材マッチングの場を拡大して行く。参画企業の拡大が即ち本事業成果の全国普及につながると期待される。

なお、制作する教育プログラムの内容は電気通信工事業に特化させるものであり、他分野への提供は考えにくいが、構築するコンソーシアムとジョブフェアによる人材マッチングの手法は、これを拡大することで、他の職業分野にも十分に応用できるものと考える。

令和７年度

「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

成果報告書

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、株式会社東京リーガルマインドが実施した令和５年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。